2002年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界市民　（地球環境問題）		春学期	2単位	巖　圭　介

［講義概要・学習目標］

「どの世代もこの地球を自由にしてよいという権利はない。われわれは1代限りの借家人である。」

これは1988年10月イギリス保守党大会におけるサッチャー元首相の演説である。このような認識が1988年頃から急速に各先進国に広がったにもかかわらず、地球環境は急速に悪化しさまざまな問題が表面化している。環境破壊は、現時点でもさまざまな人権侵害を含んでいると同時に、次の世代の生存を脅かすという意味においてわれわれの子孫に対する人権侵害でもある。

この講義では人権問題という位置づけでさまざまな地球環境問題を紹介する。内容的には巖が担当する他の講義（環境問題概論）と重なる部分が多いことをあらかじめ了解していただきたい。

［講義計画］

以下のテーマをとりあげる予定

・大量消費社会の裏側　－ゴミ問題－
・奪われし未来　－忍び寄る人工化学物質－
・加熱する地球　－地球温暖化－
・失われる大地　－土壌荒廃－

［成績評価の方法］
2回のレポートと期末試験により判定する
（詳細は初回講義にて）

［教科書］

とくになし

［参考書］

遠山益　『人間環境学』　裳華房　2001

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界市民 原爆と映画：記録と記憶		春学期	2単位	中　村　秀　之

［講義概要・学習目標］

1945年8月の広島・長崎への原爆投下という出来事を日本人はどう受け止めてきたでしょうか。これは大変大きな問題ですが、本講義では、日本映画における原爆や核兵器の描かれ方を検討することによって、この問題に歴史的にアプローチしていきます。

映画は記録映画と劇映画に大別できます。本講義も、この区別にそって2部に分けられます。記録映画の中心になるのは、原爆投下からわずかひと月後に現地で撮影が開始され翌年春に完成した記録映画『広島・長崎における原子爆弾の効果』です。私たちはこの映画によって当時の原爆被害の実態を見ることができます。しかし同時に、この映画自身の数奇な歴史は、映像の社会的利用にかんする複雑な問題を提起しているのです。

他方、広島・長崎への原爆投下やその後の核兵器・核戦争を題材とした劇映画は、反戦映画、怪獣映画、アート系の名作、アニメーションなど多様です。しかし、そこに見られる原爆についての集合的な「記憶」や想像力には一定の傾向を認めることができます。それはどのようなものだったのでしょうか。

本講義の最終的な目標は、このような映像分野での「記録」と「記憶」についての考察を、私たち自身が、原爆投下という問題を受け止め、これについて考え続けてゆくための出発点とすることです。

［講義計画］

以下のような内容・順序で行う予定。

広島・長崎への原爆投下：その歴史的背景と被害の実態。
日本映画と原爆：総説。
記録映画『広島・長崎における原子爆弾の効果』（1946年）。
占領期から独立前後までの原爆映画。
原爆映画としての『ゴジラ』（1954年）とその後の怪獣映画。
黒澤明の映画と核時代。
原爆文学と原爆映画：『黒い雨』とその映画化。
ジャパニメ（日本製アニメーション）における核の想像力。

［成績評価の方法］

レポート（中間レポートと学期末レポート）による。

［教科書］

ミック・ブロデリック（編著）『ヒバクシャ・シネマ　日本映画における広島・長崎と核のイメージ』（柴崎昭則・和波雅子訳、現代書館、1999年）

［参考文献］

授業中に適宜紹介する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民（グローバリズムと社会主義）		春学期	２単位	松尾　純

［講義概要・学習目標］

桃山学院大学は、建学以来、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と、世界の市民として広く国際的に活躍し得る人材の養成」を理念として掲げて歩んできました。「世界の市民」とは、愛と自由の精神を尊重しながら、地球的視野で社会のさまざまな問題に立ち向かう自立した個人を意味します。

世界は、いま激しく変化し、情報化とグローバリゼーションの時代にあります。この時代を生き抜くためには、情報リテラシーと外国語でのコミュニケーション能力をしっかりと身に着ける必要があります。しかし、それだけでは不十分です。地球上には、さまざまな異文化が存在し、さまざまな人々が居住しているということ、そして、さまざまな世界認識や幸福感がそこにはあるということを真に理解しうる人間でなければなりません。このような能力・見識を持った「世界市民」を養成するという本学の教育目的を追求する一つの重要な場として、２００２年新カリキュラムの実施に伴って設置されたのが、この「世界市民」科目です。

とはいえ、具体的に、科目内容として、何を、どのように、教授すればいいのか、目下（２００１年１１月現在）、明確には語り得ません。しかし、本学教員が自己の専攻する研究領域から「世界市民」の養成という目的にそった内容を語るという任務を、できるだけの努力を以って果たしたいと考えます。

［講義計画］

講義ノートが出来ていません。あくまでも予定であるということで、講義「計画」を示しておきます。

Ⅰ．建学の精神・「世界市民」の意義
　１、桃山学院および桃山学院大学の歴史と建学の精神
　２，桃山学院大学における人権教育の歴史
　３，新カリキュラムにおける「世界市民」科目の設置の経緯
Ⅱ．19～20世紀末におけるグローバリズム
　１，資本主義の成立・発展とグローバリズムの進展
　２，対抗勢力としての社会主義グローバリズムの成立・発展
Ⅲ．20世紀末～21世紀におけるグローバリズム
　１，「社会主義」崩壊後の現下の市場経済の発展とグローバリズム
　２，２１世紀における「グローバリズム」？

［成績評価の方法］

学期末のテストをもって成績評価をしたいと考えています。

［教科書］

本科目の性質上、参考書はあり得ても、教科書などはあり得ません。

［参考文献］

参考書として相応しいものが見つかれば、随時お知らせします。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民 （経済学における自由と平等）		秋学期	２単位	滝　田　和　夫

［講義概要・学習目標］

通常、経済学の歴史は経済分析の歴史として、主に理論的展開の歴史として語られる。しかし、それは同時に人類の普遍的価値である自由と平等をめぐる思想的葛藤の歴史でもあった。例えば、古典派経済学の創始者であるＡ．スミスの『諸国民の富』は、当時の政策体系である重商主義を批判し、経済的自由主義を主張したものである。また、Ｋ．マルクスは、自由な資本主義経済の発展が無制限な生産力発展をもたらすと同時に富と貧困の対立をもたらし、人類の平等という点で深刻な矛盾を含むことを示した。さらにＪ．Ｍ．ケインズは自由な資本主義経済を維持しつつ自由と平等を調和させる媒介環として国家の役割に着目した。

このように、経済理論発展の背後には常に自由と平等をめぐる問題が存在したのであるが、この講義では、経済学の歴史を自由と平等という視点から論じていきたい。具体的には、Ａ．スミス、Ｋ．マルクス、Ｊ．Ｍ．ケインズなど何人かの経済学の巨人の経済学説を取り上げ、それらにおいて人類の普遍的価値である自由と平等の問題がどのように考えられているかを検討していきたい。

［講義計画］

（初めての講義なので以下の計画は暫定案であり、講義開始時に示すものはこれとは異なるかもしれないことをご了承いただきたい。）

１．重商主義の経済思想
２．Ａ．スミスと経済的自由主義
３．Ｄ．リカードの自由貿易論
４．資本主義の矛盾とＫ．マルクス
５．Ｊ．Ｓ．ミルと社会改良
６．Ｊ．Ｍ．ケインズと国家
７．反ケインズ主義の経済思想

［成績評価の方法］

試験の成績による。

［教科書］

［参考文献］

必要に応じて随時指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界市民 ――自己責任と義務に生きる社会――		秋学期	2単位	津田和夫

［講義概要・学習目標］

世界市民について、本学建学の理念である「キリスト教精神に基づく人類愛の精神」を基本とするが、特に本講座では、21世紀に生きる学生諸君のグローバルな視野を育成するため、まず、政治、経済、社会、文化、日常生活などにおける多様な問題について世界事情の知識の習得を行う。
そして、それを通じて、世界市民として、一人一人の自己責任と、社会と共生するために果たすべき義務について、自己の内面的改革と実行力の養成を期待したい。

本講座は新カリキュラム初めての試みであり、試行錯誤でスタートするが、社会生活40年余に亘り、ほぼその半分を外国で過ごした担当者の経験談なども交えながら、さらに学生との直接対話を重視したい。
そこで、多人数の教室では通常質問が出ないので、前期主管科目「銀行論」で実施した「E―メールによる質疑応答」を、この科目でも導入する。可能な限り回答し、全員に役立つものは、次回の講義でその内容を還元する。積極的参加を勧奨したい。

メールアドレスは＜tsudakaz@andrew.ac.jp＞

［講義計画］

1、自己責任とは？　「権利教育」中心で「義務教育」不在の戦後民主主義
2、日本の常識は世界の非常識
3、国家を考える、（政治、官僚、資本主義）
4、日本語化した英語の怪
5、海外の日常生活
6、国際会議の日本人
7、文書の書き方
8、日本の「わび・さび」を研究するサウジアラビヤの銀行員
9、世界貿易の自由化、国内産業保護(ｾｰﾌｶﾞｰﾄﾞ）と戦争の危機
10、金利のつかないｲｽﾗﾑ社会、金貸しｼｬｲﾛｯｸの罪
など。

さらに、その都度、そのとき発生した内外の政治・経済・社会問題や国際問題などを考える。たとえば最近では、テロ、歴史教科書、中国のWTO加盟、核燃料、地球温暖化、高速道路、幼児虐待、エイズ・狂牛病など。

［成績評価の方法］

出席と期末試験。　E―メールによる質疑参加状況も加味する
（出席調査方法については受講生の数により別途策定する）

［教科書］
未定

［参考文献］

未定

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界市民（戦争と障害者）		秋学期	2単位	生瀬　克己

［講義概要・学習目標］

２０世紀は戦争の世紀であったといわれるが、わが国の歴史をみても、２０世紀の前半は特に「戦争の時代」との様相を呈している。このような戦争の時代に、「傷痍軍人」とよばれた戦争がつくりだす障害者があらわれる。この「傷痍軍人」をキーワードにして、戦争の歴史をみていくと、何が見えてくるのか。それがこの講義のテーマである。

［講義計画］

戦争で障害者になるというのは、いったい、何を意味していたのか。それを歴史的にみていくと、そのようなことになるのか。それは人びとのなかに何を残したのか、また、何も残さなかったとすれば、それは何故なのか。そうしたことを考える講義にしたいと思う。

［成績評価の方法］

各講義ごとの各学生の受けとめ方を大切にしたい。それゆえ、出席重視を前提とした評価となる。

［教科書］

特には指定しません。

［参考文献］

必要なときに適宜紹介します。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民（現代社会と人権） （旧人権問題Ⅰ（人権問題概説））	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	寺木　伸明

［講義概要・学習目標］

本学の建学の理念であるキリスト教精神に基づく人格の陶冶と国際的に活躍する世界市民の育成のためには、まず一つには、現代社会における人権問題をよく理解し、その確立のために行動できる人間を形成することが望まれる。

本講義では、人権とは何か、世界にはどのような人権問題があるか、を説明した上で、日本社会の人権問題のうち部落問題を中心に取り上げ、被差別部落の現状、その発生と変遷の歴史、部落解放運動の歩み、今後の解放運動の課題などについて概観していく。

その際、ビデオなどの視聴覚教材を活用し、より理解が深まるような授業形態を考えたい。

また、被差別部落出身者をゲスト講師に招き、部落差別を受け、それと闘ってきた人からの体験談を聞いていただく機会を持つ予定である。

［講義計画］

1　現代における人権問題とは何か
2　世界と日本における人権問題
3　日本の部落問題
　（1）被差別部落の現状
　（2）部落差別の実態
　（3）被差別部落の起源とは何か
　（4）近世の身分制度と部落の生活
　（5）近代日本と部落問題
　（6）全国水平社の創立と戦後の解放運動
4　人権確立社会の実現の方向と方策

［成績評価の方法］

学期末に実施する試験の成績を基本にして出席点（数回、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。

［教科書］

寺木伸明・野口道彦編『部落問題論への招待　資料と解説』解放出版社

［参考文献］

上田正昭編『国際化のなかの人権問題』明石書店

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民（先住民族と人権） （旧人権問題Ⅱ－人権の思想と歴史（世界））	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	尾本　惠市

［講義概要・学習目標］

約一万年前まで、われわれの先祖はみな採集・狩猟民であった。その生活は、ヒトもまた自然の一部であることを認めるつつましいものではあったが、平等で平和な社会が保たれていた。大航海時代（15-17世紀）にヨーロッパ人たちによってアメリカやオーストラリアが「発見」されたが、そこには1万年以上も前から住んでいた採集・狩猟民など先住民の人々がいたのである。この授業では、そのような先住民族として先住アメリカ人、先住オーストラリア人（アボリジニ）、日本のアイヌ、およびフイリッピンのアエタを選び、その生活および植民者と出会ってからの苦難の歴史について学ぶ。この授業の目的は、われわれの行動や生活の原点でもある採集・狩猟生活の「生き証人」である先住民族を知ることによって、人権やヒューマニズムの見地から現代文明を相対化することである。

［講義計画］

ビデオ等の映像記録を見ながら、先住民の生活と世界観、植民者による虐待の事実などを学ぶ。毎週、出席票に質問や感想を書いてもらい、次の時間にそれらに答えることによって、できるだけ「双方向的な授業」にしたい。

また、本学の建学の理念である「キリスト教精神にもとづく人格の陶冶」および「世界市民の育成」にとって、この授業がいかなる関係をもつかについて考えてもらう。さらに、我々にとって「ヒューマニズムとは何か」を学生と共に考えたい。

［成績評価の方法］

原則として出席をとり、随時レポートを提出してもらう。期末試験では、授業内容だけでなく、この授業が本学の建学理念とどのような関連をもったかについての意見も書いてもらいたい。

［教科書］

なし。

［参考文献］

随時指定する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民（キリスト教Ⅰ）	０１ ０２	春学期 秋学期	２単位 ２単位	滝澤武人

［講義概要・学習目標］

「建学の精神」であるキリスト教の立場から「世界市民」に光をあてることがこの講義の目標です。今年度は一人の人間として生きていたイエスの歴史的な姿を明らかにします。イエスはいわゆる「被差別民衆」の中で生き抜き、人間の自由と愛のために最後まで戦い、その結果として殺された人間であると言えるでしょう。そのようなイエスの生きざまは、「キリスト教」や「教会」という枠をはるかに超えた普遍性を獲得していると思います。

イエスの精神は、アッシジのフランシスコ、フランシスコ・ザビエル、マザー・テレサなどによって受け継がれてきました。そして現代においてもなお、特に社会福祉・医療・教育・人権・ボランティアなどの問題に関心を有する世界中の人々に、大きな感動と勇気と希望を与えつづけています。

イエスを学問的に論ずるためには、２００年にわたる「福音書」の研究成果を土台としなければなりません。どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような歴史的状況の中で、誰に対して、何のために語られた言葉なのかを慎重に判断することが要求されます。真面目な学生諸君の熱心で主体的な受講を期待しています。もちろん、「信仰」の有無などには全く関係がなく、誰でも自由に受講することができます。

［講義計画］

滝澤武人著『人間イエス』によって講義します。

序章　イエスをもとめて
１章　おいたち
２章　被差別民衆
３章　ヒーリング
４章　どんな男？
５章　どう生きる？
６章　教会は？
７章　終末
８章　死
終章　復活

［成績評価の方法］

試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価します。

［教科書］

新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）
（聖書のテキストを自分で「読む」ことが中心ですので、できれば旧約聖書をも含んだ『聖書』を毎時間必ず持参して下さい。）
滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）

［参考文献］

田川建三『イエスという男』（三一書房）
荒井　献『イエスとその時代』（岩波新書）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民 （市民生活と公共図書館）		春学期	２単位	志保田務

［講義概要・学習目標］

市民生活と図書館の関わりについて、世界のいくつかの国、日本のいくつかの市町村を対象に考察する。市民生活における図書館の活用、図書館建設と市民運動などに広がる。「市民の図書館」を創ることの大切さを学ぶとともに、図書館の変遷、行き先などにも目を向ける。右蘭「講義計画」に示したように、全体を４期に分け、それぞれにまとめるよう展開する。

［講義計画］

第1部　生活と図書館；概説
　　公共図書館の成立と発展
　　図書館の基本線：確認
第2部　生活と図書館；外国編
　　英米
　　北欧
第3部　生活と図書館；日本編
　　図書館の誕生
　　われらの図書館
　　買い物篭さげて図書館へ
第4部　生活と図書館；行方
　　これからの図書館
　　電子化生活と図書館の変容
　　構造改革と図書館の基本線の変容
　　まとめ

［成績評価の方法］

テスト６５％
小レポート３０％
出席５％

［教科書］

のちに指定する。

［参考文献］

日本図書館協会編『中小都市における公共図書館の運営』日本図書館協会　１９６３
石井桃子『こどもの図書館』岩波書店　１９６５
日本図書館協会編『市民の図書館』日本図書館協会　１９７０
石井敦，前川恒雄『図書館の発見』日本放送協会　１９７０
悦子・ウイルソン『サンフランシスコ公共図書館；限りない挑戦』日本図書館協会　１９９５
辻由美『図書館で遊ぼう』講談社　１９９９

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民（世界市民の原像）	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	山川偉也

[講義概要・学習目標]

この講義は、「世界市民」概念形成の経緯とその歴史をたどることを通じて、学生諸君に生きた「世界市民」とは何であるかを学習し探究してもらうことを意図している。「世界市民」という言葉は、ギリシア語の「コスモポリーテース」に由来している。その言葉を最初に使ったのは、シノペのディオゲネースという人物である。その伝統はやがてストアの四海同胞思想を培かい、ヨーロッパのヒューマニズムの流れを形成する重要な要因となっていく。この講義では、こうした「世界市民」概念の起原と歴史について総論的展望を与え、「あるべき世界市民」について考えてもらう契機としたい。

[講義計画]

資料を読むことと討論することを交互に繰り返すことを通じて、学生の主体的学習と「世界市民」たることの理解を深めていく。

[成績評価の方法]

授業中に行なう小テストの結果と学期末試験の結果を総合的に判定して行なうものとする。

[参考文献]

[教科書]

教科書なし。資料はコピーして配布する。

★上記教科書について下記のいずれかに○印をおつけ下さい。　（上記教科書覧に掲載していただくのは年間の授業に携帯すべき本・資料に限定します。）

1．生協にて一括購入し販売する。　2．絶版本につき印刷・コピーする。　3．自分で用意する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民（障害者問題入門）		春学期	2単位	生瀬克己

[講義概要・学習目標]

「障害者」というのは、どのような人たちのことか。そんなことを理解するために、いろいろな「種類」や「程度」の障害者たちのことを、できるかぎり、具体的に考えていくことにしたい。

[講義計画]

障害者というのは、ごくおおざっぱにいうと、身体障害、知的障害、精神障害の三にわけることができるが、現実には、もっと、もっと多様で、複雑な存在でもある。

そこで、そうした複雑さをできるかぎり年頭似おきつつ、いろいろなタイプの障害者の相違点と共通点を理解してもらえるようにしたい。

[成績評価の方法]

出席点を重視することと、講義への誠実な参加態度を大切にして評価したい。

[参考文献]

必要なときに適宜紹介します。

[教科書]

特には指定しません。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民（「アジア市民」との共生）		秋学期	2 単位	徐（ソ） 龍（ヨン） 達（ダル）

[講義概要・学習目標]

「世界市民」とは遠大な教育目標である。それは言うは易くして実現はきわめてむつかしい。目標達成への一里塚として、まず日本人とは何かを考え、近隣の諸国民との交流はどうあるべきか、そして「アジア市民」社会の実現と共生がどうすれば可能となるのかについて共に考えたい。その基礎があって「世界市民」が視野に入るのではないか、と考える。

[講義計画]

グローバリゼーションのなかで、日本に住む外国人もふえてきた。日本のなかの定住外国人との共生を考えつつ、「アジア市民」社会を展望しうる力を身につけ、国際的な視野をもてる人材の育成につとめたい。
初めての試みなので、毎回の講義計画は立てにくい。テキストの順に講義したい（テキストは、金達寿、旗田巍、田中宏、姜在彦先生らとの談話である）。

[成績評価の方法]

授業中の討議（意見交換）とテストを総合して決める。

[教科書]

大沼保昭・徐龍達 編
『在日韓国・朝鮮人と人権 ― 日本人と定住外国人との共生を目指して ―』（改訂増補版）、有斐閣、

[参考文献]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民 家庭と人権：過去・現在・未来		秋学期	2単位	佐藤啓子

[講義概要・学習目標]

家族の過去の姿から未来への進化と併せて、個人の過去（例えば胎児の"人権"から高齢者に至るまでの、いわば足元の人権問題を、家族を基点に取り上げる。
人権問題として捉えることのできる問題意識と法的思考を身につけることを目標とする。

[講義計画]

命が誕生する前の父母の出会いから成長・老年期に至るまで。

[成績評価の方法]

出席とレポートによる（変更の可能性あり）

[教科書]

特になし

[参考文献]

『子どもの人権双書1 家庭の崩壊と子どもたち』（平湯編 明石書店）
『結婚と家族』 稲島著 岩波書店）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
世界市民（合衆国憲法と人権保障）		秋学期	2単位	小早川　義　則

［講義概要・学習目標］

基本的人権の保障は民主主義の根幹にかかわる重要な問題であるが、その具体的内容は必ずしも分明とはいえない。本講義は、世界における人権思想の流れを概観した後、ピューリタン思想に基づき建国された米国の憲法上の人権規定の発展過程を合衆国最高裁判例を中心に辿りつつ、日本での人権問題とのかかわりを明らかにする。人権の先進国アメリカでの動きを概括的にせよ把握することは、それ自体有益であることはもちろん、キリスト教精神に育まれた「世界市民」の養成という本学の精神にも通ずることと思われる。

［講義計画］

講義形式になるが、二年間の米国（ニューヨーク）留学の経験を生かして、例えば今回の同時テロ多発の目標となった世界貿易センター周辺の地理的状況の説明など、留学体験ならではの生の体験をおりまぜながら、無味乾燥な内容に陥らないよう努力したい。一方通行の講義を避け、学生諸君との相互のコミュニケーションを重視したいので、講義途中での積極的で活発な質問を歓迎する。

［成績評価の方法］

平常点および期末試験を総合して評価する。

［教科書］

小早川義則＝小山剛『比較人権保障論』（成文堂、2002年9月刊予定）

［参考文献］

藤倉皓一郎ほか編『英米判例百選［第3版］』（別冊ジュリスト139号）（有斐閣、1996年）、その他適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文学（日本Ⅱ）		春学期集中	４単位	深　澤　　徹

［講義概要・学習目標］

「平安文学」と呼ばれる、「仮名文」を用いた文学テキストの流れを、平安中期から鎌倉初期にかけて、歴史的に跡づける。表意文字である漢字を用いて文章を書く「漢文」と違って、「仮名文」は、音声と文字とが一対一対応の表音文字である。漢字による「音・訓」語とは異なる、日本に土着の言葉（それは後に「やまとことば」と呼ばれるようになるが）の響きを、そのままに伝えてくれるこの仮名文字が、やがて東アジア文化圏の中での日本というナショナルな意識を培う基盤となる。そうした日本におけるナショナルな自己意識の芽生えは、すでに日本書紀や古事記にも見えるが、それが人々の間に広く浸透するのは、古今集の「仮名序」を始めとする。その展開のプロセスを、日記文学から源氏物語、さらに鎌倉期の物語評論書や擬古物語の出現を通して跡づける。

［講義計画］

第１講：東アジア文化圏の中における日本の地政学的位置
第２講：漢学アイデンティティによる知的ネットワークの形成
第３講：「やまとだましい」と「漢才」の文化的路線対立
第４講：言語ナショナリズムとしての古今集仮名序
第５講：自己アイデンティティを＜女＞に位置付けるオリエンタリズム的思考
第６講：仮名文を通した自画像作成の試み
第７講：横領され、搾取される＜女＞のテキスト

［成績評価の方法］

出席状況、及び教場試験を２回行って、総合的に評価する。

［教科書］

鈴木日出男他編『古典入門』（筑摩書房・１８００円）

［参考文献］

共通教養～02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文学（西洋　Ⅰ）		秋学期集中	４単位	出　原　博　明

［講義概要・学習目標］

主として近・現代の心理小説について勉強します。

１９世紀小説を完成させると共に２０世紀心理小説の元祖となった巨匠 H.Jamesの名作『或る婦人の肖像』を中心テキストとして、その方法と内容について多角度から切り込み、心理小説の本質を解明します。人間の内面を描くのにどのような方法が用いられているか、経験とは何か、意識とはどういうものか、時間とは如何なるものか、などの問題についても追究します。　この講義は、Jamesの他にM.Proust, G.Flaubert, E.Wharton, V.Woolf, J.Joyce、Comtesse De La Fayette、Stendhalなどの心理小説も取り上げる予定です。

20世紀の所謂祖国喪失者たち（特にAmericaのlost generation）の文学についても学びます。

（時間の余裕があれば、西欧の影響を受けた日本の文学者たちについてもお話しようとおもっています。逆に西欧文学への日本の影響についても。また、詩歌もとりあげたい。）

［講義計画］

理論と主張をできるだけ具体的に実証しながら講義を進めていきます。

テキスト以外の作品に関しては、作者と作品の背景や作品の梗概、問題箇所、などを必要に応じてプリントにして渡します。

テキスト『ある婦人の肖像』のプリントは作成出来ません。のみならず、講義中、その細部にわたって頻繁にくり返し言及することになりますから、これは必ず購入しておいて下さい。（文庫本ですから廉価です。）

ときにはビデオも利用します。

［成績評価の方法］

授業参加の積極度と一回のテスト。

［教科書］

『ある婦人の肖像』（上中下）、ヘンリー・ジェイムズ作、行方昭夫訳、岩波文庫

［参考文献］

『オデッセー』（ホーマー）、『鳩の翼』、『黄金の盃』、『使者たち』（H.ジェイムズ）、『失われた時を求めて』（M.プルースト）、『ダロウウエイ夫人』（V.ウルフ）、『ユリシーズ』（J.ジョイス）、『無邪気な時代』（E.ホートン）、『クレーヴの奥方』（ラファイエット）、『感情教育』（G.フローベル）、『赤と黒』（スタンダール）、『源氏物語』（紫式部）、『偉大なギャツビー』（F.S.フィッツジェラルド）、『日はまた昇る』、『武器よ、さらば』『老人と海』（ヘミングウエイ）。その他は教室で指示。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
文学（西洋Ⅱ） （旧西洋社会史）		秋学期集中	4単位	米山喜晟

［講義概要・学習目標］

この授業は、ヨーロッパ中世の文学の概説にあてる。だがその前に、当時の書物とはどんなものだったかを、紙や筆記用具の歴史などとともに簡単に眺めておく。

また古代ローマ文学の遺産として、ゴート族の支配下のボエティウスの『哲学の慰め』などにも触れて、古代との連続性をも考えたい。それから年代記や歴史の類いをいくつか眺めた後、『ローランの歌』に代表される叙事詩、トロバドゥールの代表的叙情詩、修道院文学の代表『アベラールとエロイーズ』、そして『バラ物語』、ファブリヨーから『神曲』、ペトラルカ、そしてイタリア・ノヴェッラやフランソワ・ヴィヨン、チョーサーなど、翻訳の抜粋、時には英訳などを用いて具体的に西洋中世の文学史をたどっていく。

［講義計画］

紙や筆記用具について２～３時間
歴史や年代記、最古の叙事詩類２～３時間
叙事詩５～６時間 叙情詩３～４時間
修道院文学２～３時間　『バラ物語』等１～２時間
ファブリヨーとイタリア・ノヴェッラ５～６時間
ダンテ、ペトラルカ、ヴィヨン、チョーサー５～６時間

［成績評価の方法］

出席点とレポートによる評価。今年はたびたびテキストを読んでもらって、出席点を重視したい。

［教科書］

プリント配布

［参考文献］

筑摩書房：世界文学大系６５　中世文学集
同　　６６　中世文学集２
米山・鳥居著：イタリア・ノヴェッラの森

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
文学（西洋Ⅲ） （旧西洋文学）		春学期集中	4単位	高田里惠子

［講義概要・学習目標］

この講義ではドイツ近代文学の主要な作品を取りあげながら、文学史や文学理論の基本的な知識を獲得し、また作品の読み解きの方法を学ぶことを目的とする。扱う作品には、邦訳文庫のあるものや、映像化されているものも多いので、この機会に多くのドイツ文学の小説・戯曲に触れてほしい。

［講義計画］

1．シュトゥルム・ウント・ドラング
2．新しい演劇形式
3．マン、ヘッセ、カフカ
4．ナチズムという過去との対決

［成績評価の方法］

最後に期末試験を行なう。また状況によっては、理解度を見るために、レポートか小テストを課すこともありうる。試験やレポートでは、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない

［教科書］

教科書は使用しない

［参考文献］

藤本淳雄他著『ドイツ文学史』（東京大学出版会）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文学（「ハン」と「ものゝあはれ」）		秋学期集中	4単位	梅　山　秀　幸

[講義概要・学習目標]

韓国は日本にとって一衣帯水のほんの隣国であるが、近代の不幸な歴史を経て、日本にとってはいまだに近くて、遠い国である。ワールド・カップの共同開催をきっかけにして、さまざまな文化交流の試みがなされるはずであるが、真の文化理解のためには、その文化のエッセンスともいうべき文学の理解を欠かすことはできないであろう。授業担当者（梅山）は、朝鮮王朝の宮廷文学の三部作ともいえる、『癸丑日記』、『仁顕王后伝』、『閑中録』の翻訳を刊行したが、それらの作品を読みながら、同じく宮廷を舞台にして生まれた平安時代の物語文学との比較を試みたい。一般に「ハン（恨）」といわれる心性は日本の「もののあはれ」と、その悲哀の相で共通するが、どう違うのか。それを理解することは、今後の日本と韓国の関係のためにも、喫緊の課題であると思われる。

[講義計画]

1、朝鮮の歴史・朝鮮語（ハングル）・神話など
2、朝鮮時代の文学　時調・野譚など
3、朝鮮宮廷小説　『癸丑日記』・『仁顕王后伝』・『閑中録』
4、河合隼雄氏との対談
5、『竹取物語』について
6、『伊勢物語』について
7、『源氏物語』について
8、『問はずがたり』について
9、ものがたりをしかける悪、讒言、姦通、殺人、その他
10、『華厳縁起絵巻』の世界　文化交流のありかたについて

[成績評価の方法]

レポートおよび筆記試験による。

[参考文献]

授業時に指示します。

[教科書]

梅山秀幸編訳『恨のものがたり　朝鮮宮廷女流小説集』（総和社）
梅山秀幸著『かぐや姫の光と影』（人文書院）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史学（日本Ⅰ） （旧日本社会史）		秋学期集中	4単位	生瀬　克己

[講義概要・学習目標]

歴史的な物の見方や考え方の習得をめざすことになる。そこで、具体的な講義においては、それぞれの歴史的場面における「誰が」「何時」「どこで」「何を」「どのように」したか。その結果、時代や社会の何がかわったのかを理解してもらう。

[講義計画]

具体的な講義の展開としては、日本の近代社会の成立過程、つまりは日本資本主義の形成過程を素材にして検討していくことになる。そして、この日本近代の形成過程の研究という一つの課題を前にして、いろいろな専門家によって、意見と理解が異なる理由と意味についても検討していくことにしたい。

[成績評価の方法]

講義のテーマごとに小レポートを書いてもらうなどによって、受講学生の理解と参加を参考にしつつ評価することにしたい。

[参考文献]

必要なときに適宜紹介します。

[教科書]

特には指定しません。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
歴史学（日本Ⅱ） （旧日本近代思想史）		秋学期集中	4単位	佐賀　朝

［講義概要・学習目標］

本講義では、**「近世・近代の巨大都市大阪と周辺地域」**と題して、大学が立地する地域である大阪とその周辺の歴史について、近世（江戸時代）～近現代を中心に概述する。特に、**大阪と堺・泉州地域の動向**を重点的に取り上げる。

現在の大阪府域とほぼ重なる摂津・河内・和泉の三国は、統一政権の成立に伴って巨大城下町大坂が誕生して以後、都市近郊の高生産力地域として独自の発展を遂げた。ここでは、巨大城下町としての大坂の特色とその歴史的展開を概観するとともに、堺と泉州を中心に、周辺地域のいくつかも取り上げて近世以来の地域発展の歴史を見ていく。

また近代については、巨大都市大阪の発展の流れを概観し、それに伴って進んだ都市化が、周辺地域にどのような影響を与えたか、そこにはどのような矛盾があったか、などの点に着目して論じる。

いずれも各地域の民衆生活の具体的な実態とその変化に即して見ていく。

以上の作業から、①わたしたちが日々暮らし、学んでいる場である**現代大阪地域の歴史的成り立ちとその問題点**について考えるとともに、②**地域社会の歴史の流れを、発展と矛盾の両側面から大きく捉える**ことを通じて、歴史学の基礎的な方法を実践的に学ぶことをめざす。

［講義計画］

おおむね以下の内容に沿って進める。

近世の大坂と周辺地域
巨大城下町／近世大坂の都市行政／近世の大坂経済／近世の堺と泉州／城下町岸和田と寺内町貝塚／近世の河内地域／幕末維新と大坂

明治期の大阪と周辺地域
近代都市大阪の形成／資本主義化と都市化の進展／大阪市・堺市の成立／近代都市の建設と社会問題／鉄道網の発達と周辺地域開発

大正～昭和期の大阪と周辺地域
「大大阪」の成立と周辺地域／都市問題の激化と都市政策の登場／岸和田市の成立／郊外住宅地から衛星都市へ／戦争と大阪地域

［成績評価の方法］

出席・受講態度、小テスト、定期試験などにより総合的に評価する。

［教科書］

特定のものは定めない。必要な資料は授業のなかで随時、配付する。

［参考文献］

小山仁示・芝村篤樹『大阪府の百年』（山川出版社、1991年）
原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年）
芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920·30年代の大阪—』（松籟社,1998年）

その他、授業のなかで随時、提示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
歴史学（アジアⅠ）		春学期集中	4単位	深見純生

［講義概要・学習目標］

海の道による東西交流の歴史をとりあげる。

地域的には東南アジアを中心に扱う。そこには地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が交易世界と結びついて、典型的な海域アジア世界が成立した。時間的には２０００年前の始まりから、ヨーロッパ勢力がアジア海域世界に登場するまで、つまり１５世紀までを扱う。この間のアジア間交易のシステムの形成と、様々な変貌をあとづけることになる。

海から歴史を見ることで、無意識のうちに陸中心になっている私たちの歴史観を反省する手掛かりになることを期待している。あわせて、具体的な史料を取り上げることによって、史料の背景、史料の読み方、史料の解釈など歴史学の方法の基礎的なことがらにも触れる。また視覚的な理解のため若干のビデオ資料も用いる。

［講義計画］

1. 海域アジア世界 — 島の熱帯、モンスーン、海圏
2. 漢とローマ — 海のシルクロードの成立するまで
3. モンスーン航海の確立 — 法顕の航海、東南アジア史における５世紀
4. マラッカ海峡交易帝国 — シュリーヴィジャヤ交易帝国のすがた
5. 広州の繁栄 — アラブ・ペルシア商人の活躍
6. 中国人海商の進出
7. マラッカ海峡＝三仏斉のすがた（10～13世紀） — 海賊と国家
8. チョーラの世紀＝南インド勢力のマラッカ海峡支配（11世紀）
9. 「都会」 — ネットワーク構造の変化（12～14世紀）
10. ムラカ王国一極集中の時代 — 15世紀の自由貿易港？

［成績評価の方法］

時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。

［教科書］

［参考文献］

家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993 〔桃図A225.9〕
長沢和俊『海のシルクロード史: 四千年の東西交易』中公新書 1989 〔桃図A209〕
藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982 〔桃図A209〕

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
歴史学　（大日本帝國の興亡）		春学期集中	4単位	望　月　和　彦

［講義概要・学習目標］

本講は、わが国の20世紀前半の歩みをふり返り、新たな歴史認識を得ようとするものである。本講は、従来、わが国歴史学が立脚してきたマルクス主義唯物史観に拠らず、全く異なる歴史評価を行う。歴史を学ぶことは、単に過去の事物を取り上げて懐古趣味に耽ることではない。歴史を知ることは、現在を知ることであり、将来を予測する手がかりを得ることでもある。このまま世の中が進んでいけばどのような結果になるのか、現在の私たちにはどのような選択肢があり、各選択肢からどのような結果が生まれると考えられるか、このような問題を複雑極まる人間社会の問題としてとらえようとすれば、その手がかりは過去の事例に求めるしかない。

本講の関心も単なる過去に対する回顧ではなく、現在社会の問題解決にある。歴史は繰り返すというが、20世紀前半のわが国の歴史を見れば、その観を益々強くせざるを得ない。そこにはバブル経済の発生とその崩壊、無原則な国際協調政策の弊害、グローバルスタンダードへの無思慮な追随、これらの経済・外交政策の失敗による社会の閉塞感、等々といった今日のわが国社会が直面する問題が、違った形で現れていることが分かる。従って、この時代に何が行われ、何が行われなかったかを考察することは、現在の問題をどう解決すればよいかを考える際に大変有益であろう。

さらに、20世紀前半のわが国の歴史を概観することで、現在のわが国が置かれた状況を歴史の流れの中で把握することができる。それは現在の私たちのできること、できないこと、すべきこと、すべきでないことをある意味で規定している。

本講を受講すれば、歴史とは単なる過去の出来事の回顧ではなく、まさに「過去に対する現在の政治である」ことが了解されよう。

［講義計画］

導入　歴史の見方・考え方
1. 日露戦争　帝国主義国家への変貌
2. 中国の動乱と第一次世界大戦　対華21カ条　排日法――日米対立への道
3. ロシア革命とシベリア出兵　日本外交の迷走　アメリカの意図
4. 大正バブルの生成と崩壊　第二次産業革命　大衆消費時代の到来
5. 大正時代の政治　ワシントン体制の成立
6. 戦間期の世界経済と昭和金融恐慌
7. 高橋財政の登場とニューディール　ロンドン世界経済会議の失敗
8. テロとクーデターの時代　統帥権干犯と軍部の抬頭　民主主義の自壊
9. 大陸政策と満洲事変　ワシントン体制の崩壊プロセス
10. 日華事変と国家総動員体制　1940年体制の成立　アメリカの対日政策
11. 日本の安全保障政策　防共から三国同盟へ　ノモンハン事件
12. 第二次大戦の勃発からパールハーバーへ　日米交渉決裂の過程
13. ローズベルトの戦争政策　無条件降伏の思想　対日占領政策の形成
14. 戦争の推移と日本の終戦工作　近衛上奏文
15. ポツダム宣言受諾　大戦末期の国際関係
16. 占領改革(1)　憲法、東京裁判
17. 占領改革(2)　経済改革、公職追放
18. 占領期の政治と経済
19. 占領政策の転換　賠償政策の変化　経済安定化へ
20. 冷戦の勃発と早期講和の挫折
21. 共産中国の成立と朝鮮戦争
22. 講和條約と安保条約　日本の再独立と吉田ドクトリン

［成績評価の方法］　期末試験の成績のみによって評価する。

［教科書］　望月和彦　『論考経済開発論』

［参考文献］

最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
言語学（言語学Ⅰ） （旧言語学）		春学期集中	4単位	清　水　真　一

［講義概要・学習目標］

"言語"はわれわれにとってあまりにも身近なものであるから、日頃それについて真剣に思いをめぐらすこともそうたびたびあるわけではないだろう。本講では、まず人間言語と他の"コミュニケーション手段"との比較をおこなうことから話しを始める。さらに科学としての言語学を隣接分野とのかかわりにおいて眺めると同時に、そのなかで"言語"をできうるかぎり明示的なかたちで把握すべく議論をすすめたい。そのため若干の数理的準備をすることになる。しかる後、人間言語についての"文法"に関する複数個の考え方を受講生諸君に提示し、われわれにとって身近な"言語"なるものに対する関心を惹起せしめることを目指す。"言語"についてのより真剣な思索への導入となれば幸いである。

［講義計画］

(1) "コミュニケーション"システムについての比較論的考察
(2) 言語学と隣接分野
(3) 若干の数理的準備
(4) 言語の"文法"
(5) 人間言語と、"文法"についてのいくつかの考え方

［成績評価の方法］

原則として、クイズ、定期試験に基づき総合的に評価する。

［教科書］

プリント配布

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
言語学（意味の諸相）		秋学期集中	4単位	林　宅男

［講義概要・学習目標］

「言語学」は言語を科学的に研究する学問である。その扱う現象は、言語音の性質と変化、語の形態と配列、語や文の意味といった言語の基本的な特徴の他、言語の起源、語族、言語と精神の関係、言語と社会の関係、言語と教育など広範囲にわたり、その目的は言語を通した人間性の理解であると言える。また言語学の研究はその奥も深い。この授業では、言葉の意味の諸相について、特に、「語用論」と呼ばれる言葉の使用上の意味の研究ついて解説し、我々はコミュニケーションにおいて言語を使ってどのように相手に自分の意志を伝え、また相手の意志を理解するかについて深く考察する。授業ではまず、言語学の全体像ついて説明した後、語用論における幾つかの主要なトピックを選んでその認知的、社会的、文化的側面について講義する。

［講義計画］

（主要トピック）
1.「言語学」とは何か
2. 意味研究の分野と立場の紹介
3. 語用論の諸分野
4. 統語論と語用論
5. 発話の意図と解釈
6. 言語使用の認知的側面
7. 会話における相互行為とその秩序
8. 言語使用と社会や文化との関係
9. 語用論の応用と周辺分野

［成績評価の方法］

試験その他。

［教科書］

1. 高原脩、林宅男、林礼子（共著）「プラグマテイックスの展開」 勁草書房
2. プリント

［参考文献］

授業中に紹介する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
思　想（聖書研究） （旧聖書研究）		春学期集中	4単位	滝　澤　武　人

［講義概要・学習目標］

キリスト教の根本正典である『聖書』、特に「旧約聖書」をできるだけ多く「読む」こと、それがこの講義の目標です。いわゆる『聖書』には、「旧約聖書」（３９巻）と「新約聖書」（２７巻）の合計６６巻のさまざまな時代に書かれたさまざまな文書が含まれています。それらは古代ユダヤ民族が残してくれた人類全体の重要な知的遺産・世界の古典中の古典なのです。それは今日においてもなお、文学・美術・歴史・思想・宗教などに新鮮な光を投げかけています。もちろん、大学という場においては理性的・学問的な研究を土台としますので、「信仰」の有無などには全く関係なくだれでもが受講できます。「世界市民」の教養として、ぜひ『聖書』に親しんでもらいたいと思います。

［講義計画］

前半に「創世記」「出エジプト記」、後半に「ヨブ記」「雅歌」などを主として読み進めます。人数にもよりますが、皆でテキストを読みあい感想を纏めてもらう予定です。真面目な学生諸君のねばり強い努力に期待しています。

［成績評価の方法］

試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価します。

［教科書］

新共同訳『聖書』（日本聖書協会、新約・旧約聖書の両方を含んだもの）
自分でテキストを「読む」ことが中心ですので、授業時には毎時間必ず持参して下さい。

［参考文献］

AERA　Mook 『旧約聖書がわかる。』（朝日新聞社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想（アジア） （旧アジア思想史）		秋学期集中	4単位	小　林　信　彦

［講義概要・学習目標］

儒教と道教の大枠を説明した後で仏教文献を取り上げる。仏教文献はインドで作られ中国で翻訳されたが，中国と日本ではそれぞれの文化を反映して本来の主旨とは違った理解が認められる。この点を手掛かりに三つの文化の根本的な違いを説明したい。

［講義計画］

まず儒教と道教の基礎知識をしっかり身につけさせる。このために加地伸行の「儒教とは何か」とアンリ・マスペロの「道教」を読ませる。加地の本は安いので購入させるが，マスペロの方は必要な箇所を複写して配布する。仏典の原テキストの翻訳と中国人や日本人が仏教について書いた文献は必要に応じて複写を配布する。

［成績評価の方法］

① 授業中の発言を特に評価する。
② 一つの課題を終えるごとに小試験を行い，折に触れて授業内容の要約を提出させる。
③ 学期の中間と学期末に試験を行う。

［教科書］

加地伸行：「儒教とは何か」（中公新書）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
思想（西洋） （旧社会思想）　－ギリシアの哲学者たち－		春学期集中	4単位	山　川　偉　也

［講義概要・学習目標］

この講義は、ギリシアの哲学者たちの言葉を通じて、物事を根本的に考えるとはどういうことであるか、また、何故そのことが大切であるのかを考えてもらうことを意図している。

［講義計画］

ギリシアの哲学者たちの言葉と対決することを通じて、21世紀以降に生きる「思想」のあり方を問う仕方での講義を行なう。

［成績評価の方法］

授業中に行なう小テストと学期末試験の結果を総合的に判定して評価する。

［教科書］

『古代ギリシアの思想』（講談社学術文庫）

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済学 （旧経済学概論）	０１	春学期集中	４単位	松尾　純

［講義概要・学習目標］
本講義は、資本主義経済の基本的仕組みを理解するための理論や概念を修得することを目的とする。この目的を達成するには、資本主義社会を経済（学）的に分析するだけでは不十分である。社会を構成する政治的・社会的・制度的な諸側面をも含む分析が必要である。
そのため、本講義では、近代社会の歴史的発展過程に沿って経済学の変遷過程（重商主義、重農主義、古典派経済学、マルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学等）を概観する。これによって、資本主義経済を多面的に分析・理解する能力を身につけることができよう。

［講義計画］
1．経済学とは何か。なぜ経済学を学ぶのか。
2．経済の歴史の概観
　原始共同体社会～奴隷制社会～封建制社会～資本主義社会～社会主義社会
3．経済学の歴史の概観。
　　1，重商主義・重農主義
　　2．アダム・スミスの経済学。
　　3．D.リカードの経済学
　　4．J・S・ミルの経済学
4．経済学の基礎理論
　　5，限界革命と新古典派経済学
　　6，ケインズ経済学
　　7．マルクス経済学
　　　1．商品と貨幣
　　　2．資本と剰余価値
　　　3．資本の蓄積
5．現代の日本および世界の経済を概観する。

［成績評価の方法］
成績評価は学期末のテストによって行なうが、成績不良者を救済するために、講義中に小テストを行う予定です。

［教科書］
テキストは指定しません。できるだけ出席してしっかりノートを取ってください。

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済学　（旧経済学概論）	０２	春学期集中	４単位	熊谷　次郎

［講義概要・学習目標］
この講義は、経済学を主要な専攻とすることがないであろう学生を対象とする入門的な講義であるが、経済学を生業としている私の立場としては、少しでも多くの経済学ファンをつくりたいと思っている。
明治３年、福沢諭吉は欧米から導入されてきた（彼自身がその導入者でもあったが）経済学のことを、「眠食を忘れ候程面白きもの」と書いた。儒学しか知らなかった当時の知識人にとっては、市場社会なるものが形成され、そこで自由な個人が利己的利益を求めて行動する結果が、見事な社会的調和をもたらすことを説く経済学は面白く驚愕すべき学問であった。この点は「講義計画　１．経済学がやってきた」で話す予定。
この講義が受講者にとって寝食を忘れるほどの面白さを持つものになるかどうかは自信がないが、いまでも経済学という科目は、世界のどこでも、福沢が驚愕した経済の仕組み、すなわち価格と需要と供給が相互に関連し依存しながら市場秩序が形成されている姿の説明から話をはじめている。
そこでこの講義でも「市場とは何か」ということを中心に経済学的なものの見方と考え方をまず最初に話し、つぎにその見方や考え方を経済社会に具体的に適用するとどうなるかということを、ミクロ経済学とマクロ経済学という現代経済学では必ず触れられる分野の基礎の基礎を学習し、そして最後にこうした経済学の基礎的知識をもって戦後（１９４５年以後）の日本経済の軌跡を概説したと考えている。

［講義計画］
講義は大きく以下のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの部分から構成される（以下目次は予定）。難しそうに書いてあるが、内容は易しく、を心がけるつもり。
Ⅰ．経済学的なものの見方と考え方
　１．経済学がやってきた
　２．経済学とは何か
　３．経済的合理性とは何か
　４．市場とは何か
Ⅱ．ミクロ経済学の基礎
　５．市場の構造（独占、独占的競争、寡占、完全競争）
　６．価格と需要・供給
　７．「市場の失敗」と政府の役割
Ⅲ．マクロ経済学の基礎
　８．ストックとフロー
　９．ＧＤＰ（国内総生産）と総需要
　１０．経済の成長と変動
　１１．貨幣と金融制度
　１２．金融政策と財政政策
　１３．外国貿易
　１４．自由貿易と保護主義
　１５．貿易と為替
　１６．国際通貨制度
Ⅳ．戦後（１９４５年以後）日本経済の軌跡
　１７．復興期
　１８．高度成長
　１９．安定成長
　２０．バブルとその崩壊

［成績評価の方法］
学習の習熟を確実にするために一月に１回ぐらいの割合でテストをする予定であるが、そのテスト結果をもっとも重視して評価を決める。

［教科書］
未定。場合によっては必要に応じてプリントを配布することになるかもしれない。

［参考文献］
J.E.スティグリッツ著／藪下史郎ほか訳『入門経済学』第２版、東洋経済新報社、１９９９年
サミュエルソン＝ノードハウス著／都留重人訳『経済学』第１３版（上下）、岩波書店、１９９２年
伊藤元重『入門経済学』第２版、日本評論社、２００１年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学 （旧経済学概論）	０３	秋学期集中	４単位	木　村　二　郎

［講義概要・学習目標］

昨年9月11日の米国同時テロをきっかけに、世界の政治経済は一段と激動の度合いを増してきている。2002年を迎え、日本経済は、累積する政府債務問題を収束させつつ、不良債権問題を払拭して自律的回復の道を歩むことができるのか。また、グローバリゼーションの流れの中における、国際経済の大再編の行方はどうなるのか。このような日本経済と国際経済が直面している問題の本質は何か。その問題はどのような歴史の流れの中から発生し、今後どうなっていくのか。私たちを取り巻く経済の情況を自分の頭脳でキャッチして、その問題点を理解し、解決の方向を自分なりに考えることが経済学の醍醐味である。

本講義は、テキストを材料にして具体的な日本経済と国際経済の現状を学習しつつ、経済学の考え方を身につけていくことを目指す。そして、新聞の経済記事が比較的簡単に読めるようになることを学習目標にする。

［講義計画］

産業構造、雇用、地球環境、景気、成長、物価、財政、金融、国際経済、国際通貨等を順次取り上げ、日本経済と国内経済の諸問題を具体的に解説する。その上で、経済学的な考え方や基本用語、諸学説についても説明する。

［成績評価の方法］

小テストと期末試験の総合評価。

［教科書］

日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』（2002年版）日本経済新聞社

［参考文献］

共通教養～02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学	０１	春学期集中	４ 単位	稲　別　正　晴

［講義概要・学習目標］

企業社会と呼ばれるように私たちの生活はいろんな形で密接に企業と結びついています。毎日の生活では多くの企業から提供されるさまざまな財・サービスを購入し、消費・エンジョイしています。また、所得をえるために多くの人々が「○○会社」という名の企業に就職しいろんな仕事に従事します（アルバイトも働いて収入をえるという点で同じです）。しかも、企業は環境の変化に対応して常に変革していきます。したがって、企業の仕組みやその活動を理解することはきわめて重要です。

経営学はこのような企業を対象とし、そのあり様を明らかにし、またそのあるべき姿を展望するする学問です。本講義では初めて「経営学」を学ぶ人たちを対象として、私たちと企業との関わり合い、企業経営の仕組み、および、ヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源がどのように運営されているかなどを取り上げます。

［講義計画］

１．はじめに
２．企業社会との関わり
３．環境変化と企業経営
４．株式会社
５．企業の目的
６．企業の組織
７．戦略の決定
８．マーケティング
９．生産
１０．資金の調達と運用
１１．人事管理
１２．経営の国際化

［成績評価の方法］

試験の成績にリポートを加味して評価する。

［教科書］

片岡信之・斉藤毅憲・高橋由明・渡辺　峻　著『はじめて学ぶ人のための経営学』
文真堂

［参考文献］

教科書に記載，また必要に応じて指示します

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営学	02	秋学期集中	4単位	面地 豊

[講義概要・学習目標]

経営学の学問的性格とその内容を概観する。講義の仕方は、歴史的方法による。すなわち、経営学の誕生とその発展を、アメリカ経営学(管理論)とドイツ経営学に関連づけて説明していく。

[講義計画]

1. 資本主義の発展と経営学の誕生
2. アメリカ経営学の考え方
3. ドイツ経営学の考え方
4. 日本的経営論

以上の順序で講義を行う

[成績評価の方法]

試験

[教科書]

拙著「西欧経営社会学の展開」~~教科書~~
千倉書房

[参考文献]

その都度、提示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学	01	春学期集中	4単位	木下 栄二

[講義概要・学習目標]

本講義の目標は、社会学に関する基礎的な知識とセンスの習得である。あらゆる社会現象を対象とする社会学は、実に多様かつ複雑であるが、根底には共通する基礎的な考え方が存在している。講義では、できるだけ身近で平易な例を取り上げながら、社会学の基礎知識の習得、それ以上にセンスを磨くトレーニングを目指していきたい。

[講義計画]

（1）社会学へようこそ（3～4回）：
社会学はこんなこともやる！こんなこともできる！という例を紹介して、社会学の面白さ、多様性、奥の深さを学ぶ。
（2）社会学の巨人達（4～5回）：
人に歴史があるように、社会学にも歴史がある。社会学を作ってきた先輩達について少しは知っておこう。
（3）地位ー役割論（4～5回）：
たいてい人間は、なんらかの地位をもって社会のなかに位置付けられてしまう。そして地位によって期待される行動も異なる。良い悪いはいろいろあるが、とにかくそうでないと社会が認識しにくい。基礎理論としての地位ー役割という考え方をしっかり習得しよう。
（4）現代社会のトレンドを学ぶ（7～11回）：
「今」はどういう時代なのか？　具体的な現代社会のトレンドを対象としながら、社会学的思考法に磨きをかけよう。「男と女」「高齢社会」「高度消費社会」「国際化」などについて議論してみたいと考えている。

[成績評価の方法]

学期末試験70%、小レポート10%、小テスト10%、授業態度10%
なお、詳細については、最初の授業で説明する。

[教科書]

特に指定せず

[参考文献]

森下伸也・君塚大学・宮本孝二『パラドックスの社会学』新曜社
川崎賢一・藤村正之編『社会学の宇宙』恒星社厚生閣
『別冊宝島176　わかりたいあなたのための社会学・入門』宝島社
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学	02	春学期集中	4 単位	宮　本　孝　二

[講義概要・学習目標]

社会学は家族から国際社会に至るまでの広範な社会現象を対象とする。この共通教養科目の社会学では、社会学のみならず経済学、経営学、文学、法学などをこれから本格的に勉強していこうとしている各学部の1年生に、社会学の基礎知識と、社会学的分析の基本的方法を習得してもらうことを目的としている。現代社会と現代文化についての豊富な情報と、それらを分析するユニークな視点を提供したい。

社会学には実に多くの内容が含まれているので、そのすべて紹介することはできないが、この講義ではパラドックス（逆説）という視点を設定し、できるだけ多くの研究成果を、その視点によって一貫性をもたせつつ順次体系的に説明する。したがって、人間存在、社会関係、家族、組織集団、犯罪・非行、経済、政治、文化さらには社会理論などについての社会学の基本知識が習得できるとともに、現代日本を中心とする世界事情についての現代人として不可欠な教養も獲得できよう。

[講義計画]

1　パラドックスの社会学とは何か
2　人間存在のパラドックス
3　人間関係のパラドックス
4　集団のパラドックス
5　逸脱のパラドックス
6　家族と愛情のパラドックス
7　科学と技術のパラドックス
8　文化と教育のパラドックス
9　経済のパラドックス
10　権力のパラドックス
11　運動のパラドックス
12　近代化のパラドックス
13　社会学的分析のパラドックス

以上の内容（補足あり）を順次約25回で講義する。

[成績評価の方法]

前期末テストの成績によって評価する。

[教科書]

森下伸也・君塚大学・宮本孝二『パラドックスの社会学』（1999年、新曜社）

社会学の広範な内容を、パラドックスというユニークな視点の設定によって、体系的に整理しつつ、読者の興味関心を喚起できるスタイルで紹介・説明している。

[参考文献]

その都度指定する。

共通教養～02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学	03	秋学期集中	4単位	原　田　　達

[講義概要・学習目標]

はじめて社会学に接する学生を対象として、「社会学への招待」をこころみる。ここでは社会学を、1) 人間関係の科学、2) 集団の科学、3) 文化の科学、4) 社会変動の科学、と言う四つの視点から、講義を組み立てる。これらは、社会生活をミクロからマクロへと展望するときに見えてくるものであり、私たちの社会生活を構成している「社会的なもの」の内容である。これによって私たちの社会生活のメカニズムの理解へとみちびきたい。

[成績評価の方法]

試験をおこなう。また、定期的にミニ・レポートを講義時間中に書いてもらい、理解の指針とする。成績評価は厳しいので、真面目に受講すること。

[教科書]

使用しない。必要に応じて、プリントなどを配布する予定。

[講義計画]

・社会科学に必要なもの：社会と個人の基本的関係
・社会科学のなかの社会学：文学と歴史学と社会科学と
・社会学とはなにか (1)：デュルケームと自殺論
・社会学とはなにか (2)：ヴェーバーと経済発展
・人間関係とはなにか：ヤマアラシのジレンマ
・人間関係：二人と三人
・人間関係と感情：インフォーマルなものの意味
・役割理論 (1)：役割と地位
・役割理論 (2)：役割と演技
・役割理論 (3)：役割の葛藤
・集団論 (1)：地位と役割と集団
・集団論 (2)：いくつかの学説
・集団論 (3)：現代の集団
・逸脱行動論 (1)：なにが逸脱か？
・逸脱行動論 (2)：逸脱の学説
・逸脱行動論 (3)：現代の逸脱
・文化の理論：学説の解説
・サブカルチャー論：現代の文化問題
・カルチュラル・スタディーの諸問題：方法の問題
・近代化と日本社会：欧米と日本
・近代化と現代：現代の問題
・現代社会の諸相 (1)：匂い
・現代社会の諸相 (2)：暴走すること
・現代社会の諸相 (3)：ツーリズムの現在

[参考文献]

講義のなかで指示します。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学	04	秋学期集中	4単位	鈴木富久

[講義概要・学習目標]

「社会学」は19世に生まれて以来今日まで、多様な方法論的立場から多様な再定義、再構成が試みられつつ、20世紀において質量ともにめざましい発展を遂げてきた。そのため、今日「社会学」と言っても、そこには方法論的立場を異にする多様な「社会学」の流れが存在している。そこで本講義は、まず、相次いで登場し現代社会学の基礎をつくりあげてきた主な諸潮流について、その展開を明らかにし、理論と方法の面から社会学への理解と関心の喚起に努めたい。その上で、後半においては、日本社会の現実をとりあげ、それを「企業社会」として把握する視角から、その全体構造と社会諸領域の問題状況についての分析を試みる。そして、現実分析の用具としての社会学の理論の役割や問題・課題等についても考えたい。

[講義計画]

序．社会学とその展開

第Ⅰ部 現代社会学の理論的基礎

§1.初期社会学－コントとスペンサー
§2.マルクス－近代社会の人間分裂と「土台-上部構造」論
§3.ウェーバー－事実判断-価値判断と方法論的個人主義
§4.デュルケーム－方法論的集合主義と集合表象
§5.ミードとシュッツ－象徴的相互作用論と現象学的社会学の起点
§6.パーソンズ－行為体系と社会体系：社会システム論の形成
§7.グラムシーヘゲモニー論の国家・市民社会・知識人；人間 統一の社会学

第Ⅱ部 「企業社会」日本の編成と危機

§1.「福祉国家」と「企業社会」
§2.企業と労働者
§3.企業と学校
§4.企業と家族
§5.企業社会と地域
§6.企業社会と文化
§7.企業・市民社会・国家と世界社会

[成績評価の方法]

主として試験の成績による。
但し、期間中に適宜、小試験を実施することがある。

[教科書]

鈴木富久『社会学講義ノート［増補・改訂版］』

[参考文献]

小林・大関・伊藤・鈴木・竹内『人間再生の社会理論』創風社
松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社
見田宗介『現代社会の理論－消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書
宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）岩波書店
ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店
ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり）
渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』（全4巻）大月書店
浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣。
古典・基本文献、その他は教科書『社会学講義ノート』132-133頁を参照

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
法学	01	通期	4単位	寺田友子

[講義概要・学習目標]

概要
市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。
私語・遅刻は厳禁。
なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。

目標
1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。
3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

[成績評価の方法]

基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出、出席、授業時間に行うテスト等を評価に加味する。

[講義計画]

1 社会生活と法
2 憲法
　1）基本原理
　2）基本的人権
　3）地方自治
3 民法
　1）総則（成年後見を含む）
　2）物権
　3）契約
　4）不法行為
　5）親族
　6）相続
4 行政法
　1）行政行為及び行政手続
　2）行政不服審査
　3）行政訴訟
　4）情報公開
　5）地方行政組織

[教科書]

中川淳『やさしく学ぶ法学』（法律文化社）
『ポケット六法　平成14年版』（有斐閣）

[参考文献]

樋口陽一『憲法と国家』岩波新書
星野英一『民法のすすめ』岩波新書
兼子仁著『新・地方自治法』岩波新書
兼子仁著『行政手続法』岩波新書
松井茂記『情報公開法』岩波新書

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
法学	０２	春学期集中	4 単位	吉　見　研　次

［講義概要・学習目標］

この講義は、受講者が現代日本法の概観を得るとともに、市民生活に特に関係の深い法律知識を身に付けることを目標とする。そこで、まず現代日本法を三大別し、公法分野（憲法、刑法、国際法等）、私法分野（民法、商法等）、社会法分野（労働法等）、のそれぞれにつき概要を説明する。そのうえで、民法とその関連法のうち特に日常の市民生活に密接に関わる各種の法制度（売買その他各種の契約に関する法、事故と損害賠償に関する法、家族生活に関する法）を順次取り上げて解説する。

なお私語も遅刻も厳禁。その他受講時の留意事項につき、最初の授業の際に言及する。

［講義計画］

Ⅰ　現代日本法の概観　⑴公法分野［憲法、刑法、国際法等］、⑵私法分野［民法、商法等］、⑶社会法分野［労働法等］

Ⅱ　契約の法律　⑴契約法序論［成立と効力、無効と取消］、⑵契約法各論［売買契約、金銭貸借契約、借家契約等］、⑶私法の原則と契約

Ⅲ　事故と損害賠償の法律　⑴不法行為の要件［一般、特殊、特別法］、⑵不法行為の効果

Ⅳ　家族の法律　⑴夫婦の法律［結婚、離婚］、⑵親子・扶養の法律、⑶相続の法律［法定相続、遺言］

［成績評価の方法］

正誤文選択等の短答式の学期末テストを予定している。

［教科書］

平井宜雄他編『ポケット六法　平成１４年版』（有斐閣）

［参考文献］

授業中に適宜紹介する。

共通教養～02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
法学	０３	春学期集中	4 単位	本　間　法　之

［講義概要・学習目標］

法律を学ぶことは，人間と人間社会を知ることであると考えています。一見無機質な条文の背後には，人間の欲望や利害の衝突の調整に関する巧みな知恵や，人間そのものについての深い洞察が潜んでいることが少なくありません。本講義では，そのような観点から，なるべく身近な問題をとりあげて，それが現行の法律とどう関わっているのか，法のしくみや法のもつ意味などについて論じていく予定です。受講生諸君には，法律学の学習を通じて，活きた人間社会の様々な現象についての理解を深めると共に，人間の生き方，社会のあり方に至るまで思索をめぐらしてもらうことを希望します。法律学の勉強は，単に法律の条文を暗記したりすることではありません。例えば，結婚について，憲法 24 条は「婚姻は，両性の合意のみに基づいて成立」すると定めていますが，なぜ両性の「合意に基づいて」ではなく「合意のみに基づいて」なのか。このたった二文字の「のみ」に込められている意味を理解することが重要なのです。

［講義計画］

① 法とは何か
② 法の発展
③ 法と裁判
④ 近代国家と憲法
⑤ 基本的人権
⑥ 犯罪と刑罰
⑦ 家族
⑧ 契約の自由
⑨ 財産
⑩ 損害賠償
⑪ 生存と環境保護
⑫ 労働者の権利
⑬ 経済生活と国家
⑭ 国際社会（国際法）と日本

［成績評価の方法］

成績は，①平素の勉学状況（講義への出席・課題等の提出・受講態度）と②期末考査の成績とを総合的に評価します。特に①に重点を置いた評価を行ないます。

［教科書］

末川　博 編　「法学入門（第５版補訂版）」　（有斐閣）　¥1400-

なお，講義に際しては，平成 14 年版の「六法」を常に携行して下さい。
「六法」の種類は問いません。

［参考文献］

講義の際に，適宜紹介します。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
法学	04	秋学期集中	4単位	松田　聰子

［講義概要・学習目標］

わたしたちが市民社会をおくるうえで必要な法的知識や法的センスを身につけることを目標にする。できる限り多くの具体的事例をとりあげて、現行の法体系がそれらにどのように適用されるか考察していく。したがって、わが国の法体系を概観し理解を深めていくことになるが、同時に法の意味についても逐次考えていきたい。

［講義計画］

1．法学の基礎－法とは何か
2．法学の基礎－法の解釈、法と裁判
3．国家と法－憲法と統治機構
4．国家と法－基本的人権の保障
5．日常の生活関係と法－民法の基本原理
6．日常の生活関係と法－財産関係の基礎
7．家族のあり方と法－家族法体系の変遷
8．家族のあり方と法－２１世紀に向けた家族法の課題
9．刑法と刑罰－刑法の基本原則
10．刑法と刑罰－刑法体系の概観
11．労働と法－労働法体系の概要
12．労働と法－労働基準法と男女雇用機会均等法
13．国際社会と法－国際法の基礎
14．国際社会と法－国境を越える人の移動と法
15．国際社会と法－地球的課題への取り組み

［成績評価の方法］

論述試験で判断

［参考文献］

副田隆重他『ライフステージと法』有斐閣

［教科書］

岡上雅美他『Invitation　法学入門』不磨書房
平成14年版「六法」（出版社は問わない）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
憲法	01	春学期集中	4 単位	松　田　聰　子

［講義概要・学習目標］

憲法の基礎を身近な例から修得することを目標にする。憲法が「最高規範性」であり「人権の法」であるとの理解を深めていくことになるが、日本国憲法のほか諸外国の憲法も素材にしていく。講義は統治機構論と人権論とに大別しすすめていく。統治機構論ではとくに司法制度を、また、人権論では、自己決定権をその責任という視点もあわせて考察していく。

［講義計画］

1．近代憲法から現代憲法へ
2．日本国憲法の成立と特質
3．国民主権①選挙制度
4．国民主権②国民投票制度
5．国民主権③天皇制
6．権力分立①国会の地位と機能
7．権力分立②議院内閣制
8．権力分立③司法制度の現状
9．権力分立④司法制度のこれから
10．人権思想の系譜
11．人権論の課題①新しい人権
12．人権論の課題②思想良心の自由
13．人権論の課題③死刑制度
14．人権論の課題④平等原則
15．人権論の課題⑤自己決定権
16．人権論の課題⑥信教の自由
17．人権論の課題⑦表現の自由
18．人権論の課題⑧社会権
19．平和主義
20．戦後改憲論の系譜

［成績評価の方法］

論述試験で判断

［参考文献］

芦部信義『憲法学』有斐閣
佐藤功『日本国憲法概説』学陽書房
佐藤幸治『憲法』青林書院

［教科書］

中谷実編『ハイブリッド憲法』勁草書房

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
憲法	０２	秋学期集中	４ 単位	松　田　聰　子

［講義概要・学習目標］

憲法の基礎を身近な例から修得することを目標にする。憲法が「最高規範性」であり「人権の法」であるとの理解を深めていくことになるが、日本国憲法のほか諸外国の憲法も素材にしていく。講義は統治機構論と人権論とに大別しすすめていく。統治機構論ではとくに司法制度を、また、人権論では、自己決定権をその責任という視点もあわせて考察していく。

［講義計画］

1．近代憲法から現代憲法へ
2．日本国憲法の成立と特質
3．国民主権①選挙制度
4．国民主権②国民投票制度
5．国民主権③天皇制
6．権力分立①国会の地位と機能
7．権力分立②議院内閣制
8．権力分立③司法制度の現状
9．権力分立④司法制度のこれから
10．人権思想の系譜
11．人権論の課題①新しい人権
12．人権論の課題②思想良心の自由
13．人権論の課題③死刑制度
14．人権論の課題④平等原則
15．人権論の課題⑤自己決定権
16．人権論の課題⑥信教の自由
17．人権論の課題⑦表現の自由
18．人権論の課題⑧社会権
19．平和主義
20．戦後改憲論の系譜

［成績評価の方法］

論述試験で判断

［参考文献］

芦部信義『憲法学』有斐閣
佐藤功『日本国憲法概説』学陽書房
佐藤幸治『憲法』青林書院

［教科書］

中谷実編『ハイブリッド憲法』勁草書房

共通教養 ~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
政治学		春学期集中	４ 単位	村　山　高　康

［講義概要・学習目標］

政治学の内容は多岐にわたり、またその定義も一言では定め難い。そこで本講義は、以下のような限定された内容で進める。

前半は、時代を近代に限定し、地域的には西欧の政治思想や学説を背景にして、国家の特質や近代デモクラシーの原理を中心に論じる。単なる過去の問題ではなく、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考えるための基礎的な講義を目指す。講義は近代西欧の歴史的背景をたどりつつ行うので、歴史への興味ももって受講されたい。

後半は、大変動の時代を迎えた現代世界の政治的課題を、国際政治システムの形成と変遷、近代主権国家の変貌、民族紛争や環境問題、現代の政治思想、日本の行政機構や政策形成などを、多面的にとりあげて考察する。多くのテーマをとりあげるが、現代世界の様々な政治的課題の底に流れる本質的な問題をクローズ・アップできるような講義を行う。

前半と後半では講義スタイルは異なるが、学説・理論・思想・制度など抽象度の高い前半の講義を充分に咀嚼することが重要である。

［講義計画］

1．近代国家の成立と新たな政治原理の創出
2．近代国家の発展と近代デモクラシーの形成
3．近代国家における政治制度の発達
4．近代市民社会と市民政治理論の成立
5．日本の政治ー近代化の諸問題
6．国際政治システムの形成と変遷
7．現代世界における主権国家の変貌
8．民族紛争・南北問題・環境破壊などへの国際政治学的アプローチ
9．現代世界の政治思想の諸潮流
10．日本の政治ー行政機構と政策決定過程の分析

［成績評価の方法］

レポートおよび論述試験による評価

［参考文献］

講義の中で随時指示する

［教科書］

特定の教科書は使用しない

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
自然科学　（生物学Ｉ）		秋学期集中	４単位	巖　圭　介

［講義概要・学習目標］

バイオテクノロジーの台頭と環境問題への注目により、生物学は２１世紀の社会でよくも悪くも中心的な位置を占めることになる。遺伝子や生態系に関する正しい理解がなければ、さまざまな社会問題に正しく対応し判断をくだすことは難しい。この時代に対応するためにも、生物というものの基本を正しく理解しておいてほしい。

生物の基本、それはすべての生物が３６億年にわたる生命の進化の産物であるということ。進化という現象を抜きにして生物のいかなる側面も語ることはできない。この授業では、進化を軸にして生命現象のいくつかの重要な側面について概説する。

［講義計画］

ときおり時事問題なども絡めながら、おおむね以下のテーマを扱う予定

・なぜ地球に生物がいるのか
・なぜ生物は進化するのか
・なぜ性があるのか
・なぜ利他的にふるまえるのか
・なぜ滅びゆく生物を守るのか

［成績評価の方法］

テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）と期末試験により判定する
（詳細は初回講義にて説明）

［教科書］

とくになし

［参考書］

桑村哲生　『生命の意味』　裳華房　2001

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
自然科学（数学入門）		秋学期集中	４単位	明　石　吉　三

［講義概要・学習目標］

数学は文科系の学部では軽視されがちであり、学生諸君もそれを反映している傾向が顕著である。しかし、数学はあらゆる学問分野で共通に用いられ、対象の表現、分析に不可欠なものである。

本講義では、大学で必要な数学の基礎を学ぶことを目的とする、文系のための大学数学入門というべき内容を目指したい　高校時代に学んだ数学の範囲が、学生諸君によって大分違っているようであるこのことを考慮し、高校時代（中学時代？）の復習、再理解も行う。

講義ごとに練習問題を提示し、理解が深まるようにしたい。

［講義計画］

以下の内容を講義する予定であるが、進捗に応じ調整する。

（１）集合
（２）関数と写像
（３）グラフと方程式
（４）関係
（５）代数系
（６）行列
（７）連続性
（８）微分、積分
（９）確率

［成績評価の方法］

出席及び試験の総合評価

［教科書］

なし。

［参考文献］

別途指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
自然科学（ヒト学入門）		春学期集中	4単位	尾　本　惠　市

［講義概要・学習目標］

自然科学の最新の成果を文科系の学生にわかりやすく教える。生物としてのヒト（ホモ・サピエンス）の特徴と進化の歴史を明らかにし、現代文明下で起きている人種・民族・環境・教育などの様々な問題の根源を探る。ヒトは分類学上はチンパンジーに近縁のサルの一種であるが、きわめて発達した大脳のおかげで概念化思考と言語で特徴づけられる「文化」をもつ。この独特の環境適応能力によってヒトは地球上にあまねく分布するようになった。その結果、ヒトの種内には外観上いちじるしい地理的多様性が存在するが、最近の遺伝学的研究によれば「人種」という生物学的概念は成り立たない。もともとヒトの生活は狩猟・採集によっていたが、約一万年前より世界の各地で農耕や牧畜が発達したため人口の急な増加が起きた。やがて人口の集中化が起こり、巨大権力や職業分化などを伴う「都市文明」が形成された。そこでは、科学・技術の発達などによって経済的には豊かな生活がもたらされたが、過密や環境破壊など様々な問題が生じた。さらに、貧富の差や階層社会、さらには奴隷制や戦争など人間性を否定する様々な負の遺産も生まれたのである。

［講義計画］

自然科学の成果を理解させるため、ビデオ等の視覚的教材を多用する。毎週、まずビデオを見て質問や感想を提出してもらい、次の時間に質問に答えながら解説をする。

ほぼ次の項目について講義する予定である。

（1）自然界におけるヒトの位置
（2）遺伝子と進化
（3）ヒトの身体と機能の特徴
（4）ヒトの脳と行動
（5）人種と民族
（6）ヒトの個体発生（成長）の特殊性
（7）文化と文明
（8）現代文明下のヒト

［成績評価の方法］

原則として出席をとり、また理解度を確認するために随時レポートを提出させる。

期末試験では、授業内容のみならず、この授業が本学の建学の精神等といかなる関係にあるかについても問う。

［教科書］

講義用プリント「ヒト学入門」を生協にて購入すること。

［参考文献］

「ヒトはいかにして生まれたか」尾本惠市（岩波書店、１９９８）
その他、随時指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
健康・スポーツ学講義　（現代健康論） （旧現代健康論）		秋学期集中	4単位	永 谷 峯 男

［講義概要・学習目標］

わたしたちにとって、健康とは何なのでしょうか。

今日、不況といわれる日本ですが、それでも私たちは豊かさにドップリと浸っているといえます。清潔さは類をみないうえに、電化・モータリーゼーション化から、飢えに苦しむ国々をしり目に飽食の時代ともいわれています。

しかし、今、歩ける距離でも車、階段よりもエスカレーター、会って話すより携帯電話、食べるのはインスタント食品といった生活です。そして、大人から子供までのストレスは心の健康を考えなければなりません。また、最近のダイオキシン問題や環境ホルモンも深く関わっています。便利さが一番のこの世界一の長寿国は、どこへいくのでしょうか。

心身を一元としてみるなら、その広がりを考えたいと思います。

生命体としてのヒトが、生きる、そしてよりよく生き抜くための基本として求めるものが「健康」です。そして、人も社会も環境も健康でなければならないと考えるのは当然です。

実際には、完全な「健康」はあり得ないでしょう。

より良い方向を見い出さなければならないことは確かです。

この講義では、からだの働きから、ライフスタイル、心の健康、健康と体力づくり、運動と栄養と休養、生活環境と健康管理、健康行政、自然環境など、広く学生諸君と学習し、その問題点と方向性を考察したいと考えます。

［講義計画］

・健康の概念と意義
・健康管理システム
・心身の発育・発達と老化
・ライフサイエンス
・生体リズムと現代人の生活
・ストレス社会と心の健康
・からだは健康的にはたらく
・からだは動かすためにある
・動かさなかったらどうなるか
・健康と体力づくり
・環境問題と健康
・くすり・薬害・自然治癒

［成績評価の方法］

期末でのテストと、授業中での小テスト、レポートなどにより成績評価する。

［教科書］

指定はしない。必要に応じプリントを配布する。

［参考文献］

授業の進行で、知らせます。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
健康・スポーツ学講義（スポーツの歴史） （旧近代体育・スポーツ史）		秋学期集中	4単位	髙　橋　ひ　と　み

［講義概要・学習目標］
現代社会において重要な生活文化として取り入れられているスポーツの歴史を、政治や経済・社会環境との関連から学習する。
そして、体育・スポーツの歴史的変遷や活動の展開、ならびに、それぞれの時代や国の情勢や思想の背景を通して、今後、様々な様相を呈すると予想される「体育・スポーツ」の国際的動向を展望する上での基礎的な知識を得て欲しい。

［講義計画］
1. 古代の体育・スポーツ
　①エジプト
　②ギリシャ
　③ローマ
2. 中世の体育・スポーツ
3. ルネッサンス時代の体育・スポーツ
4. 近代の体育・スポーツ
　①ドイツ
　②イギリス
　③スウェーデン
　④フランス
　⑤アメリカ
　⑥日本
5．現代の体育・スポーツ
6．オリンピック

［成績評価の方法］
定期試験・小試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。

［教科書］
高橋ひとみ（編著）　「体育・スポーツ史」　西日本法規出版

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
健康・スポーツ学講義（スポーツ科学） （旧スポーツ科学）		春学期集中	4単位	今　西　俊　次

［講義概要・学習目標］
スポーツ科学は人間そのものをあつかう総合科学であり、近年この分野の発展には著しいものがあります。その成果には、たんに「強く・高く・速く」という、一握りのトップアスリートだけのものではありません。健常者にとってはもちろんのこと、障害者や中・高年にとって有効なものです。
本講義では、スポーツが生体に与える影響と体力がスポーツの成果に与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について理解を深めてください。また、ワールドカップ、冬季オリンピック、MLB等に関する話題を取り上げ、スポーツの今日的課題についても考えてみます。

［講義計画］
1. 運動と骨格筋・神経系
2. 運動と呼吸・循環系
3. 運動と発育・発達
4. 運動と環境
5. 運動と身体組成
6. 運動と疲労
7. 運動と栄養
8. ドーピング
9. 体力と体力測定
10. トレーニングの基礎理論
11. トレーニングの種類と方法

［成績評価の方法］
レポート（コメント）、テストなどにより総合的に評価します。

［教科書］

［参考文献］
授業の進行に合わせて連絡します。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
健康・スポーツ学講義（生涯スポーツ論）		春学期集中	4単位	髙　橋　ひ　と　み

［講義概要・学習目標］

高度経済成長により、生活は便利で豊かになった。反面、生活の機械化・省力化が進み、様々な電化製品や自家用車の普及により、日常生活において身体を動かす機会が減少し、「運動不足病」が人々の健康を蝕む結果となっている。加えて、都市化や通信・交通の発達は人々の生活のリズムを崩し、心身のストレスを増幅している。

激変する社会に適応して心身共に健康な生涯を送るためには、科学性に根ざした意図的・計画的な保健教育に基づき、家庭や地域における健康教育活動を活性化することが重要になってくる。

健康生活をおくるうえで欠くことのできない「運動」・「休養」・「栄養」であるが、本講義においては、生涯を通じての「生活と運動」について、特に留意して学習する。

［講義計画］

1．健康の概念
2．健康な生活と環境
3．休養と健康
4．栄養と健康
5．体育とスポーツおよびレクリエーション
6．心身の発達と体育
7．遊びと生活
8．家庭体育
9．学校体育
10．社会体育
11．青年期・壮年期の体育
12．体力と体育の心理
13．運動生理
14．社会の変化と健康生活

［成績評価の方法］

定期試験および小テストにより成績評価を行う。

［教科書］

「健康科学概論」　緒方正名編著　　高橋ひとみ他著　　朝倉書店

［参考文献］

「健康・スポーツ学演習」クラス一覧

ｸﾗｽ	担　当　者	ｸﾗｽ	担　当　者	ｸﾗｽ	担　当　者
３１	藤木　泰治	５２	辻井　義弘	７５	今西　俊次
３２	藤木　泰治	５５	永谷　峯男	７６	永谷　峯男
３５	永谷　峯男	６１	今西　俊次	７７	永谷　峯男
３６	永谷　峯男	６５	見正　秀基	８１	松浦　道夫
３７	髙橋ひとみ	６６	志水　正俊	８５	髙橋ひとみ
４１	松浦　道夫	７１	長谷川修一郎	９１	児玉　公正
４５	今西　俊次	７２	長谷川修一郎	９５	今西　俊次
５１	吉井　　泉	７３	長谷川修一郎		

1．学則上、この科目は「共通教養科目（4 単位）」に位置づけられています。

2．詳細については、「健康・スポーツ学演習要項」（新年度書類在中）を熟読してください。

3．履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対 象 者 ： 02（E・SS・SW・B・LE・LI）生は全クラス対象
02 J 生は**（31・32・51・52・65・66・91）クラスは履修できません。**これ以外のクラスから選択してください。

日　　時 ： 4 月 6 日（土）　9:10 ～ 13:00（昼休憩なし）

場　　所 ： 学務課窓口

申込方法 ： 先着順に受付決定します。学務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞ 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限・時間割コードを確認しておいてください。
学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
学際科目（日本経営者列伝）		秋学期集中	４単位	鈴　木　　健

［講義概要・学習目標］

経済学において人間が問題となるのは、経済的カテゴリーの人格化としてである。資本家は資本の人格化であり、資本の魂の人格化としてのみ問題となる。一般理論としての経済理論においてはこれでよい。けれども、現実の資本主義は、経済理論によって与えられる抽象的な存在ではなく、一つの生きた歴史的全体として存在する。そこでは、経済関係は生きた人格に担われてのみ存在する。資本家は資本の人格化としての受動的な存在ではなく、資本蓄積と資本運動の方向を左右する能動的な主体として存在している。歴史的に規定される資本家の能力が個別資本の盛衰を左右する主要な要因として登場し、ひいては個別資本主義の運命を左右する要因として登場することは、洋の東西を問わず、資本主義の歴史過程にあふれる共通の現象である。明治以降本格化する日本資本主義の確立・展開の歴史も例外ではない。その過程を一瞥するなら、日本企業の盛衰と日本資本主義の展開を左右する有能な経営者たちがあふれていたことがよくわかる。本講義では、明治以降の代表的な経営者をとりあげ、日本資本主義の確立・展開を主導する企業経営者の能動的・積極的な役割について考えることにする。それは日本資本主義の歴史を企業経営者の側から捉え直すことでもある。

［成績評価の方法］

・毎週、その週の講義の総括としてテストを行い、テストの総点で合否を判定する。

［教科書］

・使用しない。

［講義計画］

・第　１週　１０月　１日　財閥の創始者と経営者
　　１０月　４日　財閥の創始者と経営者
・第　２週　１０月　８日　財閥の創始者と経営者
　　１０月１１日　財閥の創始者と経営者
・第　３週　１０月１５日　財閥の創始者と経営者
　　１０月１８日　財閥の創始者と経営者
・第　４週　１０月２２日　財閥の創始者と経営者
　　１０月２５日　財閥の創始者と経営者
・第　５週　１０月２９日　財閥の創始者と経営者
　　１１月　１日　財閥の創始者と経営者
・第　６週　１１月　５日　明治の元勲と経営者
・第　７週　１１月１２日　新興コンツェルンと経営者
　　１１月１５日　新興コンツェルンと経営者
・第　８週　１１月１９日　新興コンツェルンと経営者
　　１１月２２日　新興コンツェルンと経営者
・第　９週　１１月２６日　新興コンツェルンと経営者
　　１１月２９日　新興コンツェルンと経営者
・第１０週　１２月　３日　産業企業の専門経営者
　　１２月　６日　産業企業の専門経営者
・第１１週　１２月１０日　産業企業の専門経営者
　　１２月１３日　産業企業の専門経営者
・第１２週　１２月１７日　銀行・金融機関の専門経営者
　　１２月２０日　銀行・金融機関の専門経営者
・第１３週　１月　７日　銀行・金融機関の専門経営者
　　１月１０日　銀行・金融機関の専門経営者
・第１４週　１月１４日　財界団体と経営者
　　１月１７日　財界団体と経営者

［参考文献］

・開講時に指定する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
共通教養特別講義（会社ってなんだ？）		秋学期集中	４単位	長谷川　彰

［講義概要・学習目標］

この講義は、経営学部生以外の学生諸君を対象にしたものである。したがって、受講生の大半は「経営学」をはじめて耳にする学生であることを前提としたい。経営学は、必ずしも「会社」だけを取り扱う学問ではないが、われわれの身近に存在する「会社」を取り上げ、それを通じて「経営学」とは何かという問題に迫っていきたい。

［成績評価の方法］

試験を中心に行う。

［教科書］

特に定めない。

［講義計画］

1．会社ってなんだ？
2．企業形態論
3．株式会社論
4．所有と経営
5．現代企業論

［参考文献］

三戸　公『会社ってなんだ』文眞堂、１９９１年

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
共通教養特別講義（リスクと保障）		春学期集中	4単位	武田 久義

［講義概要・学習目標］

人間行動の原点の一つに、リスクへの対応がある。リスクへの対応に失敗すると、極端な場合には滅びを迎える。人類の歴史を眺めてみた場合、現在は第三の大きな転換期にあるのではないかと考えられる。私達は、これまで経験したことの無い情報社会という新しい社会に入っていきつつあるのである。そして、新しい社会には、新しいリスクが発生する。さらに、社会が高度になればなるほど、様々なリスクが充満すると言われている。

新しい酒は新しい革袋に入れなければならない。私達は、まず新しいリスクについて知る必要がある。そして、それぞれのリスクに対応して、それにふさわしいシステムを構築する必要がある。そのためには、まず第一に歴史に学ぶことである。人類の過去の歴史を学ぶことを通して、新しい展望をひらくのである。第二に、これまで様々な民族によって様々な生き方がなされてきていることを確認することである。このことは、リスクへの対応においても顕著に現れている。そして、以上のことを現在および将来に予想されるリスクに関連させて学習する。リスクと保障というテーマのもとに、人類のリスク対策の歴史を縦糸とし、さらに、東洋と西洋およびアングロサクソン的世界とラテン的世界という横糸とを交錯させながら、講義を組み立てていきたい。

［講義計画］

主な講義内容は、次の通りである。

＊リスクの意味と人間にとってのリスクの位置づけ。
＊リスク対策の歴史。
＊歴史における不安とその克服について。
＊失敗に学ぶ。
＊リスク認識について。
＊現代社会とリスク、保障。
＊情報社会とリスク・マネジメント。
＊環境リスクについて。
＊高齢社会とリスクについて。
＊非営利・共同組織とリスクについて。
＊リスク・マネジメントについて。

なお、レポートを頻繁に提出してもらうので、そのつもりで受講していただきたい。

［成績評価の方法］
期末テストとレポートによる。

［教科書］
プリントを配布する。

［参考文献］
随時、指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
共通教養特別講義 家族と法と社会		秋学期集中	4単位	佐藤啓子

［講義概要・学習目標］

家族の基本的関係を定めるのは家族法である。しかし、法はもちろんのこと、社会法や刑法など家族を取り巻く法は多様である。

家族を中心として法学の基本を学びまた法律を総合的視野からとらえる能力を身につけることを目標とする。

［講義計画］

基本的には教科書に沿って進める予定である。ただし適宜アップデートと補充をする。

［成績評価の方法］

出席とテストによる（変更の可能性あり）

［教科書］

『女と法とジェンダー』
（上田・小川・森川著 成文堂）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
共通教養特別講義 法女性学		春学期集中	4単位	松　田　聰　子

[講義概要・学習目標]

男女共同参画社会基本法が制定されて、男女共同参画社会を目指すさまざまな取り組みが具体化してきている。法女性学では、民法や社会保障法などを素材にわが国における女性・男性・性をとりまく法環境を概観し、男女共同参画の視点から法制度の問題点を探っていく。

[講義計画]

1．堕胎罪と中絶規制
2．中絶と生む権利
3．優生保護法から母性保護法へ
4．家族と法①婚姻成立の要件と課題
5．家族と法②人工生殖と子
6．家族と法③人工生殖とフェミニズム
7．家族と法④「選択的夫婦別姓制」の論点
8．家族と法⑤「離婚制度」見直し論
9．家族と法⑥夫婦財産制
10．日本型福祉社会の問題点①介護と保育
11．日本型福祉社会の問題点②女性の年金
12．セクシュアリティー①売買春規制
13．セクシュアリティー②性暴力と刑法
14．セクシュアリティー③セクシュアルハラスメント
15．労働法と女性
16．男女雇用機会均等法の課題
17．女性と政治
18．女性差別撤廃条約・北京会議・日本

[成績評価の方法]

論述試験で判断

[教科書]

とくに用いない

[参考文献]

金城清子『法女性学』日本評論社
山下泰子他『法女性学への招待』有斐閣
角田由紀子『性差別と暴力』有斐閣
副田隆重他『ライフステージと法』有斐閣

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
共通教養特別講義（米国の刑事裁判制度）		秋学期集中	4単位	小早川　義　則

[講義概要・学習目標]

日米の政治的経済的かかわりは密接で テレビ等を介してとりわけ刑事事件を主題とした映画等に接する機会は少なくないが、米国の裁判制度についての正確な知識は十分とは思われない。

本講義では、近時のシンプソン事件等を素材に陪審裁判の仕組みや司法取引等の意義を解説することによって米国の刑事裁判制度に関する知識を提供し、あわせてわが国での裁判員制度の導入等の問題点についての理解を容易にしたいと考えている。

[講義計画]

まず日米裁判制度の共通点、相違点を簡単に説明したあと、近時の比較的著名なアメリカ映画を視聴し、その感想文を提出させる。その後、写真入りの詳細なレジュメを用いて米国の刑事裁判制度の仕組みを説明しつつ、わが国の刑事裁判制度の問題点について触れることとしたい。

[成績評価の方法]

平常点および期末テストを総合して評価する。

[教科書]

藤倉皓一郎ほか『英米判例百選［第3版］』（別冊ジュリスト 139号）（有斐閣、1996年）

[参考文献]

小早川義則＝小山剛『比較人権保障論』（成文堂、2002年9月刊予定）、その他 適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
民法A （旧民法Ⅰ）		春学期集中	4単位	清　原　泰　司

[講義概要・学習目標]

民法（正式には民法典［Civil Code］という）は、市民（民法では「人」という）と市民との間の法律関係（財産関係や家族関係）を規律する法律であり、市民の日々の生活に密接な関係を有する法律である。ところで、わが国の民法は、成立してから100年以上経過した（明治29年(1896年)に成立）が、その中の財産法の分野、つまり「総則」、「物権」および「債権」の分野は、基本的に変わっていない（これに対し、「親族」および「相続」という家族法の分野は昭和22年（1947年）に全面改正された）。それは、わが国が資本主義経済体制・私有財産制度をとっているからである。したがって、民法の財産法を学習することは、市民生活を送るうえで役立つことはもちろん、わが国の社会や経済の仕組みを理解することにも役立つであろう。

この講義は、「総則」と「物権」の分野を対象とする。「総則」とは、民法・財産法に通ずる一般的規則であり、「物権」とは、物（動産や不動産）に対する権利のことである。これらの分野に定められている各種の法制度について、具体的事例を交えながら講義する。

[講義計画]

下記のテーマの中の現代的重要問題について講義する。

1　民法の基本原理
2　権利の主体―自然人、法人、権利能力なき社団
3　権利の客体―物（動産、不動産）
4　法律行為―意思と表示の不一致、代理（有権代理、無権代理、表見代理）
5　無効と取消
6　時効
7　物権の意義―債権との相違
8　物権変動―不動産の物権変動、動産の物権変動
9　占有権と所有権
10　用役物権―地上権、永小作権、地役権、入会権
11　担保物権―留置権、先取特権、質権、抵当権
12　非典型担保―譲渡担保、仮登記担保、所有権留保、リース

[成績評価の方法]

出席状況、小テスト（月1～2回程度）および期末テストの結果を総合評価する。

[参考文献]

清原泰司ほか編『ファンダメンタル法学講座　民法1総則』（不磨書房）
三和一博　編『演習ノート　民法総則・物権法［全訂版］』（法学書院）

[教科書]

小林一俊・片桐善衛『カレッジ民法Ⅰ―総則・物権―』（酒井書店）
『コンパクト六法』又は『ポケット六法』又は『デイリー六法』等

共通自由～02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
民法B （旧民法Ⅱ）		秋学期集中	4単位	清　原　泰　司

[講義概要・学習目標]

民法が定める権利は、物権（物に対する権利）と債権（人に対する権利）に大別されるが、この講義は、債権について規制する債権法を中心に行う。債権は、契約（売買契約、賃貸借契約、運送契約など）や不法行為（交通事故、医療ミス、薬害など）により発生するものであり、私達が日々の生活において絶えず取得したり（この場合は債権者となる）、取得されたり（この場合は債務者となる）するものである。したがって、債権法を学習することは、日常生活において生起する諸問題を解決する法的能力を養うとともに、社会や経済の仕組みを法的な観点から理解することにも役立つであろう。

講義は、具体的事例を交えながら説明するが、債権法およびそれに関係する特別法（借地借家法、製造物責任法、消費者契約法など）だけでなく、適宜、民法総則や物権法にも触れる。なお、民法の財産法全体を理解するためにも、民法Aとセットで履修することが望ましい。

[講義計画]

下記のテーマの中の現代的重要問題について講義する。

1　債権の発生原因―契約、事務管理、不当利得、不法行為
2　債権と物権の相違
3　賃貸借契約
4　債務不履行―履行遅滞、履行不能、不完全履行
5　損害賠償、解除
6　危険負担
7　消費貸借契約と利息制限
8　責任財産の保全―債権者代位権、債権者取消権
9　用役物権―地上権、永小作権、地役権、入会権
10　人的担保―物的担保との相違、連帯債務、保証債務、
11　債権譲渡
12　債権の消滅―弁済、相殺
13　不法行為―一般的不法行為、特殊的不法行為

[成績評価の方法]

出席状況、小テスト（月1～2回程度）および期末テストの結果を総合評価する。

[参考文献]

適宜、指示する。

[教科書]

松浦千誉・片山克行　監修『ゼロからの民法　財産法［改訂第2版］』（不磨書房）
『コンパクト六法』又は『ポケット六法』又は『デイリー六法』等

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国　際　法		秋学期集中	4単位	軽　部　恵　子

［講義概要・学習目標］

このクラスでは国際法の基礎を習得します。**国際法がわかると、新聞やＴＶの国際ニュースがわかります**。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。

なお、春学期の国際機構論では、大学生なら誰もが持つべき世界史の基礎的知識を確認しつつ、講義を進めます。国際法を履修する人は、国際機構論を先に履修するか、高校程度の世界史を各自で勉強して下さい。両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です。

国際法に関連する重大ニュースや事件は、講義予定外でも随時取り上げます。ドキュメンタリー・フィルムや国連ホームページ等も教材として使用します。

［講義計画］

1．国際法とは何か：主権国家、国際社会の特徴
2．国際法の歴史：ウェストファリア条約、グロチウス『戦争と平和の法』、ハーグ平和会議、２つの世界大戦　他
3．国際法の主要原則：「合意は拘束する」　他
4．国際法の法源：条約、慣習法、判例、強行規範
5．国際法の主体：国家、国際機構、人民、個人
6．国家：国家成立の要件、国家の基本権能、国家承認、政府承認、国家管轄権、国家承継、国家責任
7．国家領域：領域の得喪、海の国際法、空の国際法
8．外交関係：外交使節、外交特権、領事、
9．条約：条約案の交渉、署名、批准、加入、改正、終了、無効、留保　他
10．国際紛争の平和的解決と武力紛争の規制

［成績評価の方法］
学期末試験（２００３年１月）
（講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くためで、いわゆる「出席点」にはなりません）

［教科書］
・　有斐閣『国際条約集２００２』＜生協にて一括購入＞
・　教員作成の資料
※　履修登録する前に「２００２年度　国際法・国際機構論を履修する皆さんへ」を必ず一読して下さい。

［参考文献］　-- 国際機構論のページも見て下さい --
・国際法学会編著　『国際関係法辞典』　三省堂　1995年
・山本草二　『国際法（新版）』　有斐閣　1994年
・横田洋三編　『国際法入門』　有斐閣　1997年
・大沼保昭編　『資料で読み解く国際法』　東信堂　1996年
・奥脇直也他著　『国際法キーワード』　有斐閣　1997年
・『世界の戦争・革命・反乱　総解説』　自由国民社　1998年
・R．ドリフテ　『国連安保理と日本：常任理事国入り問題の軌跡』　岩波書店　2000年
・田畑茂二郎編『ケースブック国際法（新版）』　有信堂高文社　1995年　　※　その他の文献は随時指示する。

共通自由 ~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
論理学		秋学期集中	4 単位	山　川　偉　也

［講義概要・学習目標］

この講義は、論理学の基本的知識を身近な日常生活との関連を大切にしながら培うことを意図する。その中心となるのは、『不思議の国のアリス』の著者として皆さんもよく知っておられるルイス・キャロルの格子図を用いる論理的手法である。ゲーム感覚で論理を学ぶことができる授業運営となる。

［講義計画］

学期前半は命題論理を中心に、後半は名辞論理学を中心に講義する。

［成績評価の方法］

授業中に行なうその都度の小テストと学期末試験の成績を総合的に判定して評価する。

［教科書］

山川偉也・清水真一著『論理開眼』世界思想社

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
国際関係論		秋学期集中	4単位	松村昌廣

［講義概要・学習目標］
国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握する。

［成績評価の方法］
1）出席・受講状態　50％　　2）前期試験　20％
3）後期試験　30％　　4）冬休みレポート　20％
（希望者のみ）

＊冬休みレポート
参考文献3冊を読み、各著者の（1）国際政治観（2）国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しなさい。
＊＊評価の目安
80～100％　・・・A　　70～79％・・・・・B
60～69％・・・・・C

［講義計画］
1　導入
1）国際関係論と国際関係における日本
2）国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システム的理解
3）社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論
（1）現実主義　VS　理想主義　　（2）伝統主義　VS　科学主義
（3）誇大理論主義　VS　個別理論主義　（4）講師の見解
2　総論
1）基本的捉え方
（1）現実主義（2）多元主義（3）グローバリズム（4）講師の見解
2）分析のレベル
（1）政策決定システム　　（2）国家システム
（3）国際システム　　（4）講師の見解
3　各論
1）軍事的側面
（1）安全保障（2）紛争（3）講師の見解
2）経済的側面（貿易・金融・投資・技術・開発）
（1）市場機能中心主義　　（2）国家機能中心主義
（3）資本形成中心主義　　（4）講師の見解
3）秩序づけのための組織化側面
（1）国際法（2）国際機構（3）国際レジーム
4　結論
1）冷戦後の国際構造
2）日本の国際行動とその将来

［教科書］
P.ビオティ＆M.カピ『国際関係論』（彩流社）
ロバート・ギルピン『世界システムの政治経済学』（東洋経済新報社）

但し、後者については絶版となっているので、必要箇所をコピーのうえ配付する。前者については、各人、確保すること。

［参考文献］
E・H・カー『危機の20年』（岩波文庫）
モーゲンソー『国際政治』（福村出版）
シューマン『国際政治』（東大出版会）

共通自由 ～02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
国際政治史		春学期集中	4単位	鈴木博信

［講義概要・学習目標］
主題は「冷戦史：1945～1991」です。
一共通の敵ナチ・ドイツがたおれるや、米ソ両超大国で宣戦布告もなくはじまり、半世紀近く続いたあと、一方ソ連が崩壊したというかたちで、ワシントンやニューヨークでの《戦勝パレード》もなくおわった《COLD WAR》の時代をおおづかみに捉え、「われわれは今どんな時代に生きているのか？」を問察するきっかけとしたい。
そのため、上の主題を包括的・組織的にとり扱うことは断念し、学生の皆さんの主要な事件のいくつかに焦点をあてる。そして、事件にかかわった当事者たちの証言や回想をできるだけ紹介する形で、話をすすめる予定。

［講義計画］
1. ヨーロッパにおける冷戦の起源：1945～49
2. 共産中国とアジアにおける冷戦：1945～53
3. 「平和共存」と核対決：1953～64
4. アメリカとヴェトナム：1945～75
5. 米ソ両超大国と共産中国：1949～80
6. 70年代米ソ間「緊張緩和」の進行と停滞
7. レーガン、ゴルバチョフ、そして冷戦のおわり：1981～91
8. 回顧と展望

［成績評価の方法］
1 年度末試験（レポートにかえることあり）
2 必要に応じて課す1～2回のレポートを総合して判定する。

［教科書］
特定の教科書は使用しません。

［参考文献］
○高坂正堯「現代の国際政治」講談社学術文庫 1989
○田中浩「戦後世界政治史」講談社学術文庫 1989
○仲晃「パックス・アメリカーナの転回―ジャーナリストの見た現代史」岩波書店 1992
○森本良男「冷戦―人と事件」サイマル出版会 1995
○フローラ・ルイス、友田錦 訳「ヨーロッパ」上下巻 河出書房新社 1990
○アダム・ウラム、鈴木博信 訳「膨脹と共存―ソヴェト外交史」全3巻 サイマル出版会 1974

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
国際機構論		春学期集中	4単位	軽部恵子

［講義概要・学習目標］

このクラスでは国際機構の成り立ちと仕組みについて、国連を中心に勉強します。武力紛争や、環境問題、貧困を解決するのに、国際協力は欠かせませんが、国連はどれだけ貢献してきたのでしょうか。**国連について勉強したい人、国際問題に強くなりたい人など、意欲的な学生を待っています。**

国際機構論では、大学生に必要な世界史の基礎的知識を確認しながら講義を進めます。秋学期に国際法を履修する人は、国際機構論から履修することを強く勧めます。両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です。

国際機構に関連する重大ニュースや事件は、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種ドキュメンタリー・フィルムや国連ホームページ等も教材として使用します。

［講義計画］

1．国際機構とは何か
2．国際機構の歴史：ウィーン会議、ハーグ平和会議、国際行政連合、赤十字国際委員会の誕生
3．第１次世界大戦と国際連盟の設立：ウィルソンの14カ条、パリ講和会議、国際連盟規約　他
4．第２次世界大戦と国際連合の設立：ダンバートン・オークス会議、ヤルタ会談、サンフランシスコ会議　他
5．国連の目的と仕組み：国連憲章、主要機関（総会、安保理、経済社会理事会、信託統治理事会、事務局、国際司法裁判所）、国連の専門機関、ＮＧＯ
6．国際の平和と安全の維持：紛争の平和的解決、安保理と拒否権、幻の「国連軍」、平和維持活動　他
7．軍縮問題への取り組み
8．経済・社会・人道問題への取り組み

［成績評価の方法］
学期末試験（２００２年７月）
（講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くためで、いわゆる「出席点」にはなりません）

［教科書］
・　国連広報局編　『国際連合の基礎知識』（増補改訂第５版、世界の動き社、１９９９年）　＜生協にて一括購入＞
・　教員作成の資料
※　履修登録する前に「２００２年度　国際法・国際機構論を履修する皆さんへ」を必ず一読して下さい。

［参考文献］　-- 国際法のページも見て下さい --
・吉田康彦　『図解　国連のしくみ』　日本実業出版社　1995年
・国連広報局編　『創立50周年記念　国連年鑑特別号：国連半世紀の軌跡』　中央大学出版部　1997年
・横田洋三編　『国連による平和と安全の維持：解説と資料』　国際書院　2000年
・同編著　『新版　国際機構』　国際書院　2001年
・高井晉　『国連ＰＫＯと平和協力法』　真正書籍　1995年
・国正武重　『湾岸戦争という転回点』　岩波書店　1999年
・松井芳郎　『湾岸戦争と国際連合』　日本評論社　1993年
※　その他の文献は随時指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
国際政治事情研究		春学期集中	4単位	松村昌廣

［講義概要・学習目標］

この講義では発展途上世界を比較分析するための基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するため、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。
しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、右の「講義計画」にあるように、大きく分けて３つのテーマを取り扱うこととする。これにより、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生に理解させたい。
ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。したがって、国際関係論や政治学のコースを履修したことがない者でもかなり理解できるような教授法となる。（私の「国際関係論」も是非チャレンジすることを強く進める。）
なお、本講義は２００１年度「地域研究III」を履修した者は登録しないように。内容がかなり重複するので単位認定の対象とはしない。

［講義計画］

1．総論
　1）国際関係論と地域研究
　2）システム論的アプローチ
　3）比較研究アプローチの危機　・・・　「理論の島々」

2　各論
　1）民族紛争
　2）国際テロ・アフガン問題
　3）東アジア
　　（1）朝鮮民主主義人民共和国
　　（2）中華人民共和国
　　（3）日本

3　結論　「ポスト冷戦」後の地域研究

［成績評価の方法］
Ａを目指す学生　・・・　講師の指示に従い研究レポートを作成
Ｂ・Ｃを目指す学生　・・・　通常の学年末試験を受ける
出欠をとり、最低でも８割の出席率がない者には単位を与えない。

［教科書］
購入の必要はない。

［参考文献］
Ｈ・Ｊ・ウィーアルダ「比較政治の新動向」東信堂、１９９１。
Ｇ・アーモンド、Ｂ・パーウェル「比較政治」時潮社、１９８６。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域研究Ⅰ （旧地域研究Ⅰ（欧米の政治と社会））		通期	４単位	捧　堅　二

［講義概要・学習目標］

現代のアメリカ及び西欧について政治を中心に歴史や思想もまじえて講義する。

［講義計画］

1　「近代」とその射程　　2　「西洋文明」
3　グローバリゼーション　　4　ヨーロッパ統合
5　イギリス政治　　6　戦後福祉国家
7　ブレアと「第三の道」　　8　アメリカ政治
9　大統領を中心に見る戦後アメリカ１０クリントンの挫折

［成績評価の方法］

①出席状況（3分の2以上の出席が必要）。

②レポート・小テストを実施。

③定期試験を実施する。

④成績評価は厳格に行う。

注意：講義中の私語、飲食は許さない。

［教科書］　使用しない

［参考文献］

講義の際に随時あげる。

共通自由 ~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域研究Ⅱ （旧地域研究Ⅱ（ロシア・東欧の政治と社会））		秋学期集中	４単位	鈴　木　博　信

［講義概要・学習目標］

「ソビエト帝国の興隆と崩壊」が全体のテーマです。

【0】ソビエト連邦のあるまし―20世紀ロシアの政治と社会

【I】ソビエト連邦（「内帝国」）の東欧支配（「外帝国」の形成）はどのようにして、はじまったか？

【II】東欧諸民族は、それにたいし、どのように抵抗してきたか？

【III】東欧圏（「外帝国」）はどのようにして、クレムリンの支配から離脱（1989）したか？／そして ソ連邦本体（「内帝国」）は、どのようにして崩れさったのか（1991）？

［講義計画］

【0】20世紀ロシアの政治と社会―ソビエト連邦のあるまし
0. 人口―2つの「革命」―スターリン―改革者エリツィン改革者エ

【I】ソビエト連邦の東欧支配はどのようにして、はじまったか？
1. ヤルタ 1945 ― 第二次大戦と東欧再分割
2. ベオグラード 1948 ―「もっとも新しい帝国」たちはそくも裏切

【II】東欧諸民族は、くじけずし 自立・独立をもとめてたたかった！
3. ブダペスト 1956 ― 「雪どけ」そして「再凍結」
4. プラハ 1968 ―「人間の顔をもった社会主義」は「戦車の鋼」で粉砕

【III】東欧圏はどのようにして、クレムリンの支配から離脱したか？
5. グダニスク 1980 ―「古典的労働者革命」は、社会運動であった！
6. ベルリン 1989 ―ゴルバチョフ登場と「外帝国」手放し
7. モスクワ 1991 ―ソビエト連邦本体＝「内帝国」も瓦解
8. ソビエト連邦は、さいごの帝国か？

［成績評価の方法］

1 年度末試験（レポートにかえることあり）
2 出席に応じて課す1～2回の小レポート、を総合して判定する。

［教科書］

特定の教科書は使用しない。

［参考文献］

○アダム・ウラム，鈴木博信訳「膨張と共存 ―ソビエト外交史」全3巻 サイマル出版会 1974
○川崎春男ほか監修「ロシア・ソ連を知る事典」平凡社 1990
○伊東孝之ほか監修「東欧を知る事典」平凡社 1993
○イェルフスキ，木幡孝治訳「ワルシャワ蜂起1944」筑摩書房 1989
○木戸蓊「激動の東欧史」中公新書 1970
○笹本駿二ら編「東欧の動乱」（ドキュメント現代史10）平凡社 1972
○南塚信吾編著「東欧革命と民衆」朝日選書 1992
○佐瀬昌盛「チェコ情報センター」戦車がやってきた」サイマル出版会 1983
○マーティン・メイア，鈴木主税訳「ソヴィエトの悲劇」上下2巻 草思社 1983 1987
○小林和男「図解 ロシアの仕組み」中経出版 2000

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
日本史	01	春学期集中	4単位	寺木伸明

［講義概要・学習目標］
本講義では、日本の歴史全体を概述することになるが、その際、民衆の視点、とくに差別され迫害されてきた民衆の視点で従来の日本史を見直していくよう努力したい。そのことにより、いままで隠されてきた真実や埋もれてきた史実が少しずつ明らかになっていくと思う。
歴史とは、単に過去のことを興味本位に断片的に知ることではなく、現在を理解するためにこそ過去の事柄を系統的に理解し、研究することである。日本史を大きな流れにおいて理解できるように工夫をしていきたい。
できるだけ視聴覚教材を活用した授業を展開していきたいと考えているが、文化史とくに美術史の講義のときには、ビデオ・写真を多用して理解を深めていただけるようにする予定である。

［講義計画］
1　歴史とは何か
2　歴史の見方
3　日本列島での人間の歴史の始まり
4　縄文時代の社会と文化
5　古代国家と民衆
6　中世文化と被差別民衆
7　近世身分制社会と被差別部落
8　明治維新と近代化――その光と影――
9　近代日本のアジア侵出
10　戦争と民衆
11　敗戦と民主化
12　現代史の諸問題

［成績評価の方法］
学期末に実施する試験の成績を基本にして出席点（適宜、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。

［教科書］
竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編『教養の日本史』東京大学出版会

［参考文献］
小和田哲男『日本の歴史がわかる本』古代～南北朝時代編、室町・戦国時代～江戸時代編、幕末・維新～現代編、三笠書房

共通自由 ~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
日本史	02	通期	4単位	三宅正彦

［講義概要・学習目標］
古代から現代にいたる日本歴史の展開を身分制度を基軸として追究する。基本史料の読解に重点をおく。

［講義計画］
(1) 人権と身分制
(2) 良賤制の世界的意義
(3) 古代律令制国家・王朝国家と身分制
(4) 中世荘園制国家と身分制
(5) 近世藩制国家と身分制
(6) 近代天皇制国家と身分制
(7) 現代民主制国家と身分制

［成績評価の方法］
期末試験（講義に全部出席して内容の理解に努めれば単位取得は容易。欠席が多かったり注意散漫であれば取得はきわめて困難である。）

［参考文献］

［教科書］
資料を配布する。ただし配布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席していた人に対する追加配布や、持参するのを忘れた人への再配布は行わない。毎時、資料を持参しなければ、講義の理解は困難である。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国史	01	通　期	4 単位	山　崎　充　彦

[講義概要・学習目標]

「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、あるいは歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史学習とは、年号と歴史的事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけでこと足るものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。

この講義では、まず、担当者が、歴史的なものの見方とは何かについて述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。

[講義計画]

・担当者の講義

総論：

1、歴史研究の持つ問題性

2、ヨーロッパ中心史観の問題性

3、現代史をどう解釈するか。

4、歴史学における「政治的なるもの」

各論：

5、ヨーロッパにおける反ユダヤ主義

6、ナチのユダヤ人政策

7、ユダヤ人大量虐殺をめぐる戦後の論議

・ヴィデオ上映

近現代史、歴史教育、ナチズムなどに関するヴィデオを複数回観てもらう。

[成績評価の方法]

学年末試験で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考文献]

参考文献は授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。

・栗原　優、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策　－ホロコーストの起源と実態』ミネルヴァ書房

・西岡昌紀、『アウシュウッツ「ガス室」の真実』、日新報道

・ハーバーマス、ノルテ他著、『過ぎ去ろうとしない過去　ナチズムとドイツ歴史家論争』、人文書院

共通自由 ~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国史	02	秋学期集中	4 単位	坂　昌　樹

[講義概要・学習目標]

社会科教育をおこなううえで必要なものの考え方に重点をおいた授業をします。過去と現在をさまざまな視点から比較し、歴史をいかに学ぶべきか、また歴史からなにを学べるか一緒に考えていきたいと思います。

授業では、教育実習にあわせた高校用教科書を使っての模擬授業や、ビデオを見て感想文を提出していただき、それにもとづいた議論などをおこないます。おもに教員免許の取得をめざす学生の参加が望まれますが、授業へ積極的に参加する気のある方ならどなたでも歓迎します。

学ぶテーマとしては西洋史をおもな対象とし、近代化の歪み（排他的民族主義など）や現代社会の諸問題（外国人労働者など）、さらに歴史教育上の諸問題（教科書問題など）を予定しています。しばしば現代の社会状況にも言及しますが、これらの問題の歴史的背景の考察や、歴史的に類似の問題の検討ができればよいと考えています。

[講義計画]

Ⅰ．導入：外国史の課題

Ⅱ．教育実習に向けて

① 模擬授業

高校『世界史』の教科書とその教育方法の検討

Ⅲ．過去から現在への歴史的連続性を考える（ビデオを利用）

① 社会的マイナリティーの歴史

ユダヤ人、移民、難民、外国人労働者

② 歴史教育を考える

歴史教科書と歴史観の問題

（状況によっては、ⅡとⅢを入れ替えるかもしれません。）

[成績評価の方法]

授業への積極的参加（模擬授業やビデオ感想文の提出）と学年末試験（受講者が少数ならレポート）などにより総合的に評価します。

[教科書]

指定しません。

[参考文献]

『詳説　世界史』（高校用世界史教科書Ｂ）山川出版社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
東洋史	０１	春学期集中	４ 単位	片　倉　　穰

［講義概要・学習目標］

この講義では、東洋（アジア）の法文化圏の一つである律令文化圏の生成・発展過程を考察する。法をとおしてアジアの歴史を検討するものである。

いわゆる東アジア文化圏を構成する要素の一つに、律令と称される、中国で生まれた法がある。この法の生成・発展および波及のあとを振り返ってみると、広くアジア、とくに東アジアの史的展開と深く関連していることがよく分かる。そして、この律令は中国から諸地域に伝播したが、これを継受した諸地域では、これに改変を施しつつ、固有の歴史と文化に相応する法文化を形成してきた。以上を検討するために、律令法以外の、他地域の法と比較する手法をとり入れ、かつ、歴史の発展がとらえられるよう留意するつもりである。

一口にアジアとか東アジアといっても、王権や法の成り立ちには普遍性と独自性の両面が存在するということを、本講義中に示すことができれば幸いである。

なお、研究の進展により、講義計画の一部を変更することがある。

［講義計画］

はじめに：この講義の目的・計画
＜１部＞　中国法(律令)の歴史
（１）　法の生成・発展(一般論)
（２）　律令(中国法)の形成と儒教思想
（３）　古代中国における法家と儒家
（４）　律令と近隣諸国の固有法
（５）　中国法のなかの儒教思想
（６）　唐宋変革期以後の法の展開
（宋代法における女性の地位）
（７）法をめぐる歴史上の諸問題
（８）アジア（東洋）とはなにか
（９）近現代中国の法
＜２部＞東アジアにおける法の摩擦・衝突
（１）中国のベトナム支配
（２）支配法と固有法（ベトナムの抵抗）
（３）東南アジア律令国家の特徴
＜３部＞東アジアにおける律令の継受
（１）朝鮮・日本・琉球
＜付論＞アジアの王権と龍
おわりに：この講義のまとめと反省

［成績評価の方法］

出席状況および定期試験により評価する。

［参考文献］

講義中に適宜紹介する。

［教科書］

使用しない。プリントを配布して授業をすすめる。

共通自由～02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
東洋史	０２	秋学期集中	４単位	原山 煌

［講義概要・学習目標］

この講義は、中国世界を中心とする東アジア世界、そしてそれ以外のアジア諸地域を主な考察の対象とする。アジアの歴史は、「中華」と自認する漢民族と、その周辺に居住する諸民族（漢民族からは「夷狄」とよばれる）の二大要素の相剋によって展開されてきたという見方ができる。よく知られている北方騎馬遊牧民族、－匈奴や突厥、モンゴルなどは特に著名－の活動により、中国世界、そしてアジア全体、ひいては世界史的規模で実質が大きく変貌することがあった（モンゴル時代史とはまさにそのような時代である）。一方、忘れてはならないもうひとつの大きな潮流として、今や10億人をこえる信者をもつイスラム教圏がある。そうした異質の要素を含みこむアジアの歴史を通観し、再構成してみよう。こうした問題関心は、多民族複合国家として存在する現在の中華人民共和国をはじめ、アジア諸地域のありようを考えてみる場合にも大きなヒントにもなることだろう。

［講義計画］

１．この授業の目的と講義の進め方の説明
２．以下、時代を追ってアジア諸地域の歴史を通観して行く

［成績評価の方法］

授業への理解度と出席状況を確認するための小テストを毎回おこなって出席状況と理解状況を確認する。これと各学期末の定期試験によって総合的に評価する。

［参考文献］

寺田隆信『物語　中国の歴史』中公新書　中央公論社。
間野英二等　『内陸アジア』地域からの世界史6　朝日新聞社。
松田寿男『アジアの歴史』岩波書店。

［教科書］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地理学概論（旧自然地理学）	０１	春学期集中	４単位	野尻　亘

［講義概要・学習目標］

地理学は具体的な「地域」・抽象的な空間「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学・自然地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとしたい。

地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系についてわかりやすく解説する。

従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。ただし、この授業は教職（教科に関する専門科目）でもあることから、地理学全体について、人文も自然も含めて一般的かつ包括的な内容の授業とする。また学校教育での教材化に必要な具体的な事例は、別に「地誌」の授業で取り上げる。

同時に、社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。

［講義計画］

1. 探検記・産物誌から近代地理学へ　地理と地誌の違い
2. 生態学的視点と地域システム　フンボルト・リッター　ラッツエル・ブラーシュ
3. コロロギーから「地域分化」の研究へ　リヒトフォーフェン・マルテ・ハーツホーン
4. 地理学における例外主義批判と計量革命
5. 「地域」と「空間」の違い　流動を分析する視点グラヴィティモデル
6. 行動地理学とタイムジオグラフィー
7. 人文主義地理学　場所や景観の意味づけについて
8. マルクス構造主義と都市研究
9. 立地論　ウェーバー　輸送費・労働費・集積の利益
10. 立地論　レッシュ　市場の均衡と立地条件
11. 自然地理学の基礎
12. 日本の自然の特色と景観
13. 現代における地理学の課題

［成績評価の方法］

定期試験（持ち込み不可）。得点が上位から席次351位以下の履修者には単位を与えない。問題は客観テストと論述問題とする。

［教科書］

使用しない

［参考文献］

西川　治　『人文地理学入門』東大出版会

共通自由 ~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地理学概論（旧自然地理学）	０２	秋学期集中	４単位	野尻　亘

［講義概要・学習目標］

地理学は具体的な「地域」・抽象的な「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学・自然地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとしたい。

地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系についてわかりやすく解説する。

従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。ただし、この授業は教職（教科に関する専門科目）でもあることから、地理学全体について、人文も自然も含めて一般的かつ包括的な内容の授業とする。また学校教育での教材化に必要な具体的事例は、別に「地誌：」の授業で取り上げる。

社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。

［講義計画］

1. 探検記・産物誌から近代地理学へ　地理と地誌の違い
2. 生態学的視点と地域システム　フンボルト・リッター　ラッツエル・ブラーシュ
3. コロロギーから「地域分化」の研究へ　リヒトフォーフェン・マルテ・ハーツホーン
4. 地理学における例外主義批判と計量革命
5. 「地域」と「空間」の違い　流動を分析する視点グラヴィティモデル
6. 行動地理学とタイムジオグラフィー
7. 人文主義地理学　場所や景観の意味づけについて
8. マルクス構造主義と都市研究
9. 立地論　ウェーバー　輸送費・労働費・集積の利益
10. 立地論　レッシュ　市場の均衡と立地条件
11. 自然地理学の基礎
12. 日本の自然の特色と景観
13. 現代における地理学の課題

［成績評価の方法］

定期試験（持ち込み不可）。得点が上位から席次351位以下の履修者には単位を与えない。問題は客観テストと論述問題とする。

［教科書］

使用しない

［参考文献］

西川　治　『人文地理学入門』東大出版会

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地誌	０１	春学期	２単位	野尻　亘

［講義概要・学習目標］
情報があふれている現代社会において、学校教育現場では何を世界地理の授業として教えるべきか。環境教育・人権教育・国際理解教育の基礎として、世界地誌の各テーマを取り上げ、社会科・地理歴史科の教材として開発し活用する方法について、検討する。

高校地理歴史科および中学校社会科の教員免許取得のための教科専門科目です。間違いのないように注意して履修してください。教職以外の人はできるかぎり履修しないでください。

［講義計画］
1. 地理学と地誌との違い
2. 景観・等質地域・結節地域の諸概念
3. 地域学習の教材をどのように見出すか
4. ヨーロッパの統合　EUの形成とその課題
5. 旧西ドイツの外国人労働者問題
6. アメリカ合衆国　開拓の理想と現実　インナーシティ問題
7. ラテンアメリカ　モノカルチュア経済の悩み
8. オーストラリア　白豪主義の克服　日本による資源開発
9. オセアニア　核実験に抗議する島々の暮らし
10. アフリカ　砂漠化と食糧問題
11. シベリア　開発とその課題
12. アジア　NIEs諸国の経済発展

［成績評価の方法］
定期試験（持ち込み不可）。得点が上位から席次351位以下の履修者には単位を与えない。 論術問題とする。

［教科書］
使用しない

［参考文献］
中学・高校時で使用した「地図帳」（出版社を問わない）を持参していただければ望ましい。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地誌	０２	秋学期	２単位	野尻　亘

［講義概要・学習目標］
情報があふれている現代社会において、学校教育現場では何を世界地理の授業として教えるべきか。環境教育・人権教育・国際理解教育の基礎として、世界地誌の各テーマを取り上げ、社会科・地理歴史科の教材として開発し活用する方法について、検討する。
中学社会科・高校地理歴史科教職のための教科専門科目です。間違いのないように履修をしてください。教職以外の人はできるかぎり履修をしないでください。

［講義計画］
1. 地理学と地誌との違い
2. 景観・等質地域・結節地域の諸概念
3. 地域学習の教材をどのように見出すか
4. ヨーロッパの統合　EUの形成とその課題
5. 旧西ドイツの外国人労働者問題
6. アメリカ合衆国　開拓の理想と現実　インナーシティ問題
7. ラテンアメリカ　モノカルチュア経済の悩み
8. オーストラリア　白豪主義の克服　日本による資源開発
9. オセアニア　核実験に抗議する島々の暮らし
10. アフリカ　砂漠化と食糧問題
11. シベリア　開発とその課題
12. アジア　NIEs諸国の経済発展

［成績評価の方法］
定期試験で評価する（持込み不可）。得点による席次が上位から席次351位以下の履修者には単位を与えない。論述問題とする。

［教科書］
使用しない

［参考文献］
中学・高校時で使用した「地図帳」（出版社を問わない）を持参していただければ望ましい。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
哲学		通期	４単位	木下昌巳

［講義概要・学習目標］
本学での倫理学の授業の中で、学生諸君に「哲学は必要か？」という問いをしたところ、少なからぬ人が「そのそも哲学というものが何を研究する学問なのかわからないので、答えようがない」という返答をした。哲学の対象分野が必ずしも明確ではないことは事実であり、そもそも「哲学とは何か？」という自体がすでに哲学的問題であると言うことができる。だが、対象分野が明確ではないとしても、さまざまな問題に対する哲学的なアプローチというものが存在すると考える。本講義では、古代ギリシャから現代に至るまでの数人の哲学者の思想を紹介しながら、哲学的な問題意識のあり方というものに触れてもらい、その上で現代に生きる我々とそれらの哲学的問題との関わりを考察することを目指す。

［講義計画］
1，古代ギリシャ
2，近代
3，現代

という大きな枠組みで論じていく予定。
授業中の積極的な発言を期待する。

［成績評価の方法］
学期末テスト　８０点
授業中のエッセイ（前後期に各三回程度実施する予定）　２０点

［教科書］
なし

［参考文献］
授業中に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
倫理学		通期	４単位	木下昌巳

［講義概要・学習目標］
「生命倫理」をテーマとして講義をおこなう。
「生命倫理」とは，倫理学のなかでは比較的新しい一分野であり、安楽死・臓器移植・クローン人間などの従来の医学では禁止されていた行為の許容基準を明らかにする目的で生まれた学問である。自分の遺体についての決定権をもつのは自分なのか遺族なのか？ クローン人間の製造はなぜ規制されなければならないのか？など、最新の技術が提起するさまざまな問題は、日常生活のなかで問われることのなく自明のこととしていたさまざまな価値観をあぶり出し、そこでわれわれはあらためてその是非を問われることになるのである。本講義では、これらの複雑な論点を整理し、それらの問題を解決するための糸口を探っていくことにする。

［講義計画］
前期は、生命倫理固有の問題に焦点を絞り、インフォームド・コンセント、臓器移植、クローン人間などのテーマを順に論じていく。後期においては、生命倫理のテーマにこだわることなく、倫理学的な問題に関わる現代のトピックをいくつか取り上げ、検討する予定である。

［成績評価の方法］
学期末試験　８０点
授業中に提出する作文　２０点
以上の１００点満点で評価する。

［教科書］
加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療　バイオエシックスの練習問題』（ＰＨＰ新書）

［参考文献］
授業中に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
職業指導		通　期	4単位	松　原　　勇

[講義概要・学習目標]

激動する経営革新時代における産業社会で働く職業人は、グローバル・スタンダードの識見とエネルギーに満ちた豊かな人間力を磨くことが大切である。現代の迅速化・効率化に対応できる産業社会が強く要請している職業人とは、高い志しを持ち、優れた職業倫理を身につけ「自覚・責任」を持つて職務に情熱を傾け、自己の魅力ある知性と感性を磨き、持てる能力を最大限に発揮できるように知識・技術の習得が求められる。

本講では、その趣旨を踏まえ、産業社会に対応できる職業意識の高揚を目指し、職業観を明確にして職業能力の適性を伸長させ、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。

併せて、就職活動の準備のための「期待される新職業人像」を網羅して、創造力・表現力等の方法論の実践指導も図る。

[講義計画]

1 職業指導と生涯教育
2 職業指導の必要性
3 就職活動への指針
4 就職試験の実践指導
5 期待される新職業人像
6 学生生活と社会生活の相違
7 働くことの意義
8 職業人の心得
9 業務の上手な進め方
10 ビジネス文書の書き方
11 電話の取り扱い方
12 職場の人間関係の重要性
13 創造力・表現力の実践指導
14 魅力ある職業人を目指して
15 職業人の人間力を磨く手法等

[成績評価の方法]

主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、コミュニケーション能力の実践面、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。

[教科書]

松　原　勇（著）「経営革新時代の
新ビジネスマンの基礎知識」（ぎょうせい）

[参考文献]

共通自由 ~02

「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

ｸﾗｽ	担当者	ﾍﾟｰｼﾞ	ｸﾗｽ	担当者	ﾍﾟｰｼﾞ	ｸﾗｽ	担当者	ﾍﾟｰｼﾞ
０１	北條　仁志	８８	１５	田村　昶三	９０	２８	水口　薫	９２
０２	北條　仁志	８８	１６	田村　昶三	９０	２９	水口　薫	９２
０４	巖　圭介	８８	１７	藤間　真	９０	３０	水口　薫	９２
０５	岩田　賢造	８９	１８	永田　淳次	９１	３１	水口　薫	９２
０６	岩田　賢造	８９	１９	永田　淳次	９１	３２	水口　薫	９２
０７	岩田　賢造	８９	２０	永田　淳次	９１	３３	水口　薫	９２
０８	岩田　賢造	８９	２１	永田　淳次	９１	３４	水口　薫	９２
０９	杉原　一臣	８９	２２	朴　修賢	９１	３５	井上　敏	９３
１０	杉原　一臣	８９	２３	朴　修賢	９１	３６	井上　敏	９３
１１	杉原　一臣	８９	２４	朴　修賢	９１	３７	井上　敏	９３
１２	杉原　一臣	８９	２５	朴　修賢	９１	３８	井上　敏	９３
１３	田村　昶三	９０	２６	水口　薫	９２			
１４	田村　昶三	９０	２７	水口　薫	９２			

1．実習的性格をもつ授業のため、１クラスの受講生は 35 名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2．どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3．どのクラスも今までコンピュータに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としています。
4．授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりにクラス分けをします。
5．02 生については、学則上「共通自由科目（２単位)」に位置づけられています。
6．履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順ではない）**が必要です。

対 象 者 ： 02（E・SS・SW・B・LE・LI）生は（01 ～ 38）クラス対象
02 J 生は（05・06・07・08・13・14・15・16）クラス対象

定　　員 ： 35 名

日　　時 ： 4 月 4 日（木）～ 4 月 6 日（土）学務課執務時間内
平日： 9:10 ～ 16:40（11:30 ～ 12:30 昼休憩）
土曜： 9:10 ～ 13:00（6 日のみ昼休憩なし）

場　　所 ： 自由投函箱（学務課ロビーに設置）

ｸﾗｽ発表 ： 4 月 10 日（水）　聖アンデレ館下掲示板

申込方法 ： ①「コンピュータ利用Ⅰ予備登録票」に必要事項を記入して提出してください。
② 希望するクラスを 3 つ以内で記入してください。
ただし、同一クラスを記入することはできません。また、入学式に配布した「個人別指定クラス一覧」の曜日・時間と重ならないようにクラスを選定してください。
③ 記入された時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意してください。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	０１ ０２	８月集中 ８月集中	２単位 ２単位	北　條　仁　志

[講義概要・学習目標]

近年，コンピュータの発達に伴い，インターネットや電子メールによる情報伝達，ワープロによる文書作成や数値計算等，様々な目的に応じてコンピュータが利用されている．そこではコンピュータの専門的知識だけではなく，道具として扱うことができる知識が必要となる．

本講義では，コンピュータの基本的な概念を学習し，それらを身近な道具として利用し，インターネット上の様々な情報を活用できるための知識を習得することを目標としている．

[講義計画]

以下の項目について講義を行う．

1. コンピュータの基礎的概念
2. パソコンの操作方法
3. ワープロによる文書の作成
4. インターネット（電子メール，WWW）の活用
5. 表計算の基本的操作
6. プレゼンテーション

[成績評価の方法]

出席状況と提出課題により総合的に評価する．

[参考文献]

桃山学院大学計算機センター編
「ユーザーズガイド」

[教科書]

プリントを配布する．

共通自由 ~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	０４	秋学期	２単位	巖　圭　介

[講義概要・学習目標]

コンピュータを使わずに仕事をすることがありえない時代になってきた。少し前ならコンピュータ使用の経験は特技としてアピールできたが、今では使えて当たり前。ワープロを使いこなせないのは字が書けないのと同じ、電子メールを使えないのは電話の使い方を知らないのと同じである。

一方で、年々ますます高性能になるコンピュータは、様々なことを可能にする魔法の箱でもある。インターネットも無限の可能性を秘めて日々成長している。このようなコンピュータの世界を知らずにいることは、人生の損失以外の何ものでもない。

この授業では、コンピュータに触ったことのない人を対象に、コンピュータの基礎を学んでもらう。ワープロ、表計算などビジネスで必要とされる基礎技術に加え、プレゼンテーション、ホームページの作成など、コンピュータの楽しさも味わってもらえる授業にしたい。

コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけではなく実際に使って身体で覚えてもらわねばならない。毎回出席することはもちろんだが、自由時間に自習する必要もある。

[講義計画]

下記の項目について実習を行う。

・コンピュータのさわり方
・キーボード入力
・電子メール（AL-Mail）
・インターネット（Internet Explorer）
・ワードプロセッサー（MS Word）
・表計算（MS Excel）
・プレゼンテーション（Power Point）
・ホームページ入門

ただし、進度によってはプレゼンテーションやホームページ入門は割愛することがあります。

[成績評価の方法]

出席状況と提出物、期末の実技テストによる。欠席４回で除籍する。遅刻にも厳格に対処する。

[注意]

この授業は基本的に完全初心者を対象としています。
経験者が受講しても退屈なだけですし、経験者が入ることで、本来受講すべき初心者が受講できない事態も生じます。
ある程度心得のある人は、なるべく他の授業を受けるようにして下さい。

[教科書]

桃山学院大学計算機センター編「ユーザーズガイド」
（最初の授業で支給します）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当者
コンピュータ利用 Ⅰ	０５ ０６ ０７ ０８	春学期 秋学期 春学期 秋学期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	岩田 賢造

［講義概要・学習目標］

インターネットの普及に伴いエレクトロニック・コマースやビジネ
スモデルなど新しい情報技術（ＩＴ）を利用した事業やベンチャー企業が出現しています。
日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、政府はＩＴ戦略会議で2005年には「世界最高水準の高度情報通信ネットワークの形成」を目指す、e-japan計画を推進しています。
授業では、コンピューを利用する上で必要な基本的な知識・操作方法について学んで頂くと共に、コンピュータをツールとして利用している企業の事例などについて概説します。
尚、この授業はパソコンを使った経験のない初心者を対象としますので、使用経験のある方はご遠慮ください。

［講義計画］

１）パーソナル・コンピュータの概要
２）キーボード練習と基本操作
３）電子メールの基本操作
４）インターネットの基本操作
５）ワープロソフト（Word）の基本操作
６）表計算ソフト（Excel）の基本操作
７）データ分析とグラフ表現の方法

８）ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄ（Power Point）の基本操作
9）その他の情報活用技法と事例紹介

［成績評価の方法］
出席を重視します。出席日数６０％以上と数回の課題提出による総合評価を行ないます。
予習・復習などは時間外に行なっていただきます。

［参考文献］
桃山学院大学計算機センター編の「ユーザーズガイド」を利用します。

［教科書］
必要に応じて指示致します。
・教材は、主にプリントにて配布します。

共通自由 ~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当者
コンピュータ利用Ⅰ	０９ １０ １１ １２	春学期 秋学期 春学期 秋学期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	杉原一臣

［講義概要・学習目標］

昨今のコンピュータの発展は目まぐるしいものがある。単なる文章作成や計算を行う道具としてだけではなく、インターネット技術との融合により情報を送受信できる情報端末としての役割も果たすようになっている。時々刻々と様々な機能を兼ね備えていくコンピュータは、その使い方により計り知れない可能性を持っている。しかし、コンピュータについての知識がなければ、その機能を十分使いこなすことはできない。

本講義では、ワープロや表計算ソフト、インターネットによるコミュニケーションなどを体験しながら、コンピュータの基本的な操作方法を学習していく。また、我々が普段無意識に行っている、情報の取得・加工・表現といった情報を活用するための一連の作業を再認識することで、情報活用の道具としてのコンピュータの果たす役割について学習する。

［講義計画］

○パーソナル・コンピュータ(PC)の概要
○Windowsの操作方法
○ワープロソフトを用いた文章作成
○表計算ソフトを用いたデータ処理
○PCによるプレゼンテーション（進み具合により省略）
○インターネットによる情報収集および情報発信

本講義は基本的にPC操作の経験がない者を対象とします。
受講者数が限られているため、経験者はなるべく受講を控えてください。

［成績評価の方法］

講義課題、レポート、出席状況を基に評価する。
欠席は3回までとし、４回以上欠席した者は評価を行わない。

［参考文献］

桃山学院大学計算機センター編
「桃山学院大学計算機センター　ユーザーズ・カイド」
（最初の授業で受講者に配布）

［教科書］

なし

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	１３ １４ １５ １６	春学期 秋学期 春学期 秋学期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	田　村　　昶　三

［講義概要・学習目標］

インターネットやネットワークは世間の常識になった。しかし、習熟するには、それなりの時間とエネルギーがかります。それを効率的に勉強するにはツボを押さえた学習が方法があります。大学生活に必要な情報処理の入門です。
パソコン基礎を習得を目的とする「基礎のきそ」を勉強します。パソコンを道具として使いきるための初心者向きの講義です。 情報処理は大まかに(1)情報収集－(2)情報整理－(3)情報伝達－(4)情報保管・蓄積－(5)情報検索のフェズに分かれる。この中で（2）－（4）までをコミュニケーションの手段としてのパソコンを実習しながら勉強をします。

パソコン基本操作から始めますが、パソコン・リタラシー習得を授業の中心にします。 ビジネスで文書やドキュメントを中心に日本商工会議所パソコン検定試験（ワープ・表計算）合格水準を目標に技能習得します。

［講義計画］

1．Windowsの起動と終了。
2．パソコンの基本操作（キータッチとマウス）
　＊キータッチがスタートです。
3．ワープロソフト（文字入力、文書作成編集、美しい文書表現）
　＊ワープロ入力のスピードアップ。講義が終わるときに「手書きより速く入力できるようになる」を目標。
4．EXCEL（データとグラフ）（データ入力、表の作り方、グラフ作成）
　＊表計算（EXCEL)の基本的な使い方が分かり基礎的な使い方はこなせる。
5．POWER POINTの使い方　＊論理のすすめかたと表現の習得
6．インターネットの利用（WWW、電子メール、メールマガジン、）
　＊正しい電子メールの習得のために、実際にメール交換をする。
7．情報保管蓄積、情報検索、データーベース。
　＊インターネットによる情報収集の限界を理解すると共に必要性を理解する。
8．情報技術（IT）の活用するには
9．ビジネス文書、ワークフローの活用 。

［成績評価の方法］

出席が３分の２以上。、毎週入力テスト（１０分間と理解度テスト提出。電子メール交信。学期末試験により総合的に評価 する。

［教科書］

教材は、毎週プリントで配布する。

［参考文献］
桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』

［注意］
この授業は完全初心者を対象としています。経験者が入ると本来受講すべき初心者が受講できなくなるの、経験者はなるべく他の授業を受けるようにしてください。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	１７	春学期	２単位	藤間　真

［講義概要・学習目標］

「読み書きソロバン」とは、古来から言われている必要技能である。ところが、近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴い、コンピュータを操る能力もまた基本的な技能として要求されるようになってきた。

本講義では、初心者を対象に、コンピュータを操る基礎の練習を行う。具体的には、タッチメソッド（キーボードに目を向けずに両手で入力する技能）を中心に、ワープロ、表計算、電子メールの基礎を練習する。

本講義は、コンピュータに触ったことの無い初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的としている。経験者が受講申請すると本来受講すべき初心者が受講できなくなる事態が起きかねないので、ある程度心得のある諸君は他の機会を探されたい。

また、実習主体の講義であり、自習も必要となる。積極的に出席した上で、自由時間を活用して自習を進めないと単位修得は困難である。登録時には、このことに留意した上で登録を行うこと。

［講義計画］
下記の項目について説明した上で、実習を行う。
・パソコンについて
・タッチメソッドの修得
・電子メール
・ワープロソフト
・表計算ソフト
・WWWブラウザーソフト

［成績評価の方法］
出席状況及び実習の成果物の提出により評価する。

［教科書］
桃山学院大学情報センター編　ユーザーズガイド

［参考文献］

進行状態に応じて指示する。